

神奈川工科大学大学院 工学研究科

2026

Graduate School of Engineering

2026

Graduate School of Engineering

Department of Mechanical Engineering

Department of Electrical and Electronic Engineering

Department of Applied Chemistry and Bioscience

Department of Information and Computer Sciences

Department of Robotics and Mechatronics Systems



CONTENTS

- 1 建学の理念
- 1 教育目的
- 2 創設と沿革
- 4 工学研究科長のことば
- 5 工学研究科の3つのポリシー
- 6 本学大学院の特色および大学院と学部構成
- 7 機械工学専攻 Department of Mechanical Engineering
- 9 電気電子工学専攻 Department of Electrical and Electronic Engineering
- 11 応用化学・バイオサイエンス専攻 Department of Applied Chemistry and Bioscience
- 13 情報工学専攻 Department of Information and Computer Sciences
- 16 ロボット・メカトロニクスシステム専攻 Department of Robotics and Mechatronics Systems
- 18 修士論文一覧 <2024年度修了生>
- 19 大学院修了後の進路
- 20 大学院教育と学部教育の連携(単位認定)・連携大学院・
神奈川県内大学院単位互換協定・海外交流・教育交流に関する各種協定
- 21 2026年度大学院募集概要
- 22 2025年度大学院博士前期課程入試結果
- 22 2026年度学生納入金(博士前期課程・博士後期課程)
- 22 大学院の各種制度
- 24 キャンパス紹介
- 26 研究センター
- 28 先進技術研究所
- 29 アクセスマップ

建学の理念

本学は、広く勉学意欲旺盛な学生を集め、豊かな教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育てて科学技術立国に寄与するとともに、教育・研究を通じて地域社会との連携強化に努める。

教育目的

■ 博士前期課程

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための高い能力と倫理観を有する人材の育成を目的とする。

■ 博士後期課程

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野において研究者として自立して研究活動を行い、高度で専門的な業務に従事するために必要となる卓越した能力と倫理観を有する人材の育成を目的とする。



創設と沿革

科学技術の振興・発展に寄与し、わが国の工業の発展に役立つ人材を送り出して、人類の幸福に貢献したいとの意図をもって、日本水産業界の先達であった中部幾次郎翁(マルハ株式会社の創立者)とその後継者たる中部謙吉元理事長は、大学・高校その他の教育機関に諸施設を贈り、また教育の機会均等のため中部奨学会を設立するなど育英事業に意を注いできたが、更に理想の実現に進むべく、1963年4月に幾徳学園ならびに幾徳工業高等専門学校を創立した。それから15年間、約1,200名の卒業生を社会に送りだした。しかし、近年の急速な科学技術の進歩は、より高度の学術研究と教育の必要性を強く要請しており、学園もこれに応じて1973年8月大学設置を決定し、昭和50年1月文部大臣の認可を得て、同年4月幾徳工業大学を開学し、1988年4月神奈川工科大学に大学名を改めた。

1962年 12月 15日	幾徳学園および幾徳工業高等専門学校設置認可 中部謙吉 理事長に就任
1963年 4月 1日	幾徳工業高等専門学校を開校(機械工学科、電気工学科、工業化学科) 鈴木茂哉 校長に就任
1975年 1月 10日	幾徳工業大学設置認可
1975年 4月 1日	幾徳工業大学を開学 工学部(機械工学科、電気工学科、工業化学工学科) 谷下市松 学長に就任
1977年 2月 22日	中部謙次郎 理事長に就任
1978年 3月 31日	幾徳工業高等専門学校を廃校
1982年 6月	電子計算センターを開設
1984年 11月	新図書館開館
1985年 4月 1日	沖 喜久雄 学長に就任
1986年 4月 1日	工学部に機械システム工学科、情報工学科を設置
1988年 4月 1日	幾徳工業大学を神奈川工科大学に改称
1989年 4月 1日	大学院工学研究科修士課程を設置(機械工学専攻、電気工学専攻、工業化学専攻) 佐伯雄造 学長に就任
1990年 4月 1日	大学院工学研究科修士課程に機械システム工学専攻を設置
1993年 4月 1日	大学院工学研究科博士後期課程を設置(機械工学専攻、工業化学専攻、機械システム工学専攻)、同修士課程に情報工学専攻を設置 竹山秀彦 学長に就任
1993年 11月	幾徳学園創立30周年記念式典挙行
1994年 4月 1日	大学院工学研究科博士後期課程に電気工学専攻を設置
1995年 4月 1日	工学部電気工学科を電気電子工学科に学科名称変更
1996年 4月 1日	工学部工業化学工学科を応用化学科に学科名称変更 大学院工学研究科修士課程を博士前期課程に課程名称変更 大学院工学研究科博士後期課程に情報工学専攻を設置
1997年 4月 1日	大学基準協会の維持会員に認定、赤池志郎 学長に就任
1999年 4月 1日	工学部機械システム工学科をシステムデザイン工学科に学科名称変更 大学院工学研究科電気工学専攻を電気電子工学専攻に専攻名称変更
2000年 4月 1日	工学部に福祉システム工学科及び情報ネットワーク工学科を設置 大学院工学研究科工業化学専攻を応用化学専攻に専攻名称変更

2001年 4月 1日	杉山秋雄 学長に就任
2002年 8月 1日	中部謙一郎 理事長に就任
2003年 4月 1日	工学部情報工学科を改組転換し、情報学部情報工学科を設置
2003年11月22日	幾徳学園創立 40 周年記念式典挙行
2004年 4月 1日	情報学部情報メディア学科を設置、工学部情報ネットワーク工学科を改組転換し、情報学部情報ネットワーク工学科を設置
2005年 4月 1日	大学基準協会より認証評価の適合証を受理 小口幸成 学長に就任
2006年 4月 1日	工学部に自動車システム開発工学科、同ロボット・メカトロニクス学科及び同応用バイオ科学学科を設置 工学部電気電子工学科を同電気電子情報工学科に学科名称変更 工学部システムデザイン工学科及び同福祉システム工学科を募集停止 留学生別科日本語研修課程を設置
2007年 4月 1日	工学部(創造工学部・応用バイオ科学部を含む) 及び情報学部学芸員課程を設置
2008年 4月 1日	工学部自動車システム開発工学科、同ロボット・メカトロニクス学科、同応用バイオ科学学科を改組転換し、創造工学部自動車システム開発工学科、同ロボット・メカトロニクス学科、応用バイオ科学部応用バイオ科学学科を設置 創造工学部にホームエレクトロニクス開発学科を設置 情報学部情報ネットワーク工学科を同情報ネットワーク・コミュニケーション学科に学科名称変更
2009年 4月 1日	小宮一三 学長に就任
2010年 4月 1日	応用バイオ科学部に栄養生命科学学科を設置 大学院工学研究科にロボット・メカトロニクスシステム専攻を設置
2011年 4月 1日	大学院工学研究科応用化学専攻を応用化学・バイオサイエンス専攻に専攻名称変更
2012年 4月 1日	大学基準協会より認証評価の適合証を受理
2013年 4月 1日	小宮一三 学長に再任
2013年11月22日	幾徳学園創立 50 周年記念式典挙行
2015年 4月 1日	工学部臨床工学科、看護学部看護学科を設置
2017年 4月 1日	小宮一三 学長に再任
2019年 3月31日	留学生別科日本語研修課程を廃止
2019年 4月 1日	大学基準協会より認証評価の適合証を受理
2020年 3月31日	工学部臨床工学科及び応用バイオ科学部栄養生命科学学科を廃止
2020年 4月 1日	看護学部管理栄養学科及び臨床工学科を設置 看護学部の名称を健康医療科学部に変更
2021年 3月31日	学芸員課程を廃止
2021年 4月 1日	小宮一三 学長に再任
2023年11月29日	幾徳学園創立 60 周年記念祝賀会挙行
2024年 4月 1日	工学部応用化学生物学科、情報学部情報システム学科を設置 工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、同ロボット・メカトロニクス学科、同ホームエレクトロニクス開発学科、応用バイオ科学部応用バイオ科学学科を募集停止
2025年 4月 1日	大学院工学研究科機械システム工学専攻を募集停止 井上哲理 学長に就任



神奈川工科大学大学院

工学研究科長 井上 哲理

「学部で十分勉強したのに、なぜ大学院に進学してまで勉強するのですか？」

こう尋ねられたことがあります。しかし、それは大きな誤解です。大学の学部と大学院では、目指すものが根本的に異なります。

大学院は、既存の知識を学ぶ場ではなく（もちろんそれも大切ですが）、新たな知を創り出す場です。学部までは「知る」ことが中心でしたが、大学院では「問いを立て、答えを探す」ことが主となります。まさに、研究者となるための第一歩を踏み出す場所なのです。皆さんには、ぜひその第一歩を、神奈川工科大学大学院で踏み出していただきたいと願っています。

研究とは、まだ誰も答えを知らない問いに向き合い、自ら仮説を立て、調査し、検証し、ときに結果に立ち止まりながら、試行錯誤を繰り返す営みです。そこには失敗も疑問もつきものですが、それらすべてが研究の一部であり、貴重な学びの糧となります。何より大切なのは、「知りたい」「明らかにしたい」という強い好奇心と、それを形にしていける粘り強さです。

神奈川工科大学工学研究科には、機械工学専攻、電気電子工学専攻、応用化学・バイオサイエンス専攻、情報工学専攻、ロボット・メカトロニクスシステム専攻が設置されています。それぞれの専攻には専門性の高い研究室が多数あり、指導教員のもとで在学生たちは修士・博士の学位取得を目指して、日々研鑽を積んでいます。

大学院での研究活動を通して得られるものは、研究者としての成長にとどまりません。問題発見力、論理的思考力、粘り強く課題に取り組む姿勢などは、社会のさまざまな場面—たとえば企業での製品開発や技術革新、行政における政策立案、さらには教育や国際協力の現場など—においても大いに役立ちます。

神奈川工科大学には、研究者として経験豊かな教員が多数在籍しています。先輩研究者である教員の指導を受けながら、ともに問いを掘り下げ、自らの研究者としての力を育んでください。この大学院での研究活動を通して得られる学びと経験が、皆さんのこれからの人生の確かな礎となることを、心より願っています。

工学研究科の3つのポリシー

博士前期課程

■ ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

以下の知識と能力を培い、かつ、専攻ごとに定められた修了要件を満たす学生に「修士」の学位を授与する。

- ①研究者、技術者の職業を担うために必要な専攻分野における基礎的知識・技術や応用的知識・技術を身につけ、それらを体系的に理解しており、かつそれらの知識や技術を問題解決のため活用することができる。
- ②幅広い視野や俯瞰力から技術課題を発見したり、技術ニーズを掘り起こしたりすることができる。
- ③技術課題を設定し解決法を立案して研究を企画でき、企画した研究を実践することができる。
- ④専門知識に基づいて自らの思考や立案の妥当性を理論的に説明し、議論することができ、また、自ら遂行した研究、開発、調査等の成果を英文も含め、文章としてまとめることができる。
- ⑤研究者、技術者として社会の健全な発展に貢献するため高い倫理観に基づいた判断ができる。

博士後期課程

以下の知識と能力を培い、かつ、専攻ごとに定められた修了要件を満たす学生に「博士」の学位を授与する。

- ①自己の専門分野における高度な知識・技術、ならびに関連分野での知識・技術を体系的に修得し、多様な視点から多角的な議論や俯瞰的な技術評価ができる。
- ②広い視野と高い俯瞰力によって普遍的意義のある課題の抽出や技術ニーズを開拓するとともに課題解決に向けた手法を発想、企画して研究を自立して実践できる。
- ③優れた学術論文を執筆するとともに、国内の学会や国際会議において自立的に論文発表ができるとともに高度な研究討論を行うことができる。

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、下記の方針に従って教育課程を編成し、実施する。

- ①専攻分野における基礎的知識・技術や応用的知識・技術を身につけるとともに、それらを体系的に理解させ、その応用力を育成するため、各種講義や演習を中心とする基礎科目系と応用科目系からなる専攻分野のコースワークを設置する。
- ②専門分野にとらわれない幅広い視野や俯瞰力を身につけるため、研究科の講義による共通基礎科目群を設置する。
- ③課題解決能力、実践的能力、プロジェクト企画力、チームワーク力等の社会人力等を育成するため、PBL教育を中心とする総合プロジェクトやインターンシップを設置する。
- ④課題解決能力、研究企画力、実践能力、自らの思考や立案を理論的に説明して議論できる能力や研究、開発、調査等の成果をまとめ口頭や文章で表現する能力などのコミュニケーション能力を育成するため、企画立案から成果発表までの一連の研究活動を実行する特別研究を設置する。また、高い倫理観を涵養するために特別研究においては倫理教育も行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、下記の方針に従って教育課程を編成し、実施する。

- ①コースワークやリサーチワークを通して研究開発職など高度に専門的な業務に従事するための基礎となる専門分野における高度な知識・技術、ならびに関連分野での知識・技術を体系的に修得し、広い視野と高い俯瞰力を培う。
- ②リサーチワークを通して広い視野や俯瞰力によって普遍的意義のある課題の抽出や技術ニーズを開拓するとともに課題解決に向けた手法を発想し研究を主体的に企画して実践できる能力を培う。
- ③学術論文の執筆や、学会での論文発表を行い、国内外においてコミュニケーションを行う能力を培う。

■ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

- ①研究者、高度技術者に必要な専門知識や技能を習得したり理論を理解するために必要な学士課程で形成されるべき基礎的知識と能力を有する人。さらに、これらの知識や能力を活用できる思考力を有する人。
- ②国際交流に対応できるコミュニケーション能力の基礎を有する人
- ③論理的思考ができ、創造的な発明、問題の発見、問題解決に喜びを見いだせることができ、また技術を通して社会に貢献する意欲をもち、これらを含めて明確な入学の目的をもつ人。

- ①幅広い専門知識と高度な技術を有し基礎的な研究能力を備え、具体的な問題への応用力を有していること。
- ②論理的思考力を備え、創造性に富み、探究心を有していること。
- ③専門分野における国際コミュニケーション能力を有していること。

本学大学院の特色および大学院と学部の構成

本大学院の特色

- グローバル社会に貢献できる研究者を育成
- 教員による研究サポートの高さ
- 盛んな国内外での論文発表
- 最新の研究設備
- 充実した奨学金制度

大学院と学部の構成

() 内の数字は定員数

大学院

工 学 研 究 科

博士前期課程

機械工学専攻	(28名)
電気電子工学専攻	(16名)
応用化学・バイオサイエンス専攻	(16名)
情報工学専攻	(18名)
ロボット・メカトロニクスシステム専攻	(6名)

博士後期課程

機械工学専攻	(4名)
電気電子工学専攻	(2名)
応用化学・バイオサイエンス専攻	(2名)
情報工学専攻	(2名)

学 部

工 学 部

機械工学科
 機械工学コース
 自動車システム工学コース
 環境・エネルギー工学コース
 電気電子情報工学科
 電気電子情報工学コース
 情報エレクトロニクスコース
 応用化学生物学科
 応用化学コース
 応用バイオコース
 生命科学コース

情 報 学 部

情報工学科
 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
 情報メディア学科
 情報システム学科

健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)
 管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

大学院在籍者数

2025年4月現在

専 攻	博士前期課程			博士後期課程			
	1年	2年	合計	1年	2年	3年	合計
機械工学専攻	9	8	17	0	0	0	0
電気電子工学専攻	14	12	26	0	1	1	2
応用化学・バイオサイエンス専攻	15	12	27	0	0	1	1
機械システム工学専攻	—	12	12	—	0	1	1
情報工学専攻	20	20	40	1	0	4	5
ロボット・メカトロニクスシステム専攻	5	4	9	—	—	—	—
合 計	63	68	131	1	1	7	9

機械工学専攻

■ 博士前期課程

【教育目的】

機械工学専攻は、自然や社会に受け入れられる、さまざまな優れた機械系製品の開発や、製造や保守に関連したさまざまな問題を解決するために必要となる高い能力と倫理観を有する機械技術者や研究者の育成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①ものづくりの基盤となる基礎知識を理解し、機械・システムの進んだ知識を修得し、応用的知識・技術を身につけ、優れた機械製品の開発や製造、またそれらに関連した様々な問題の発見・解決に活用することができる。
- ②グローバルな視点を持ち、先端または学際的な分野にも対応できる柔軟で幅広い視野を持った思考能力で、研究やプロジェクトを企画し、実践し、評価・判断することができる。
- ③専門知識に基づいた自らの思考や結果の妥当性を理論的に説明し、議論することができ、また自ら遂行した研究、開発、調査等の成果をまとめ、発表することができる。
- ④技術者・研究者として、自然との共生、安全性や倫理性に十分配慮することができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①機械工学の高度な技術者・研究者として不可欠な材料系、熱系、流体系、制御技術系、情報技術系等の基礎知識を身につけるために、各種講義や演習を中心とする「専門基礎科目」を設置する。
- ②専門基礎を応用発展させたより深く幅広い内容を学ぶことにより、高度な技術者・研究者として必要とされる新しい技術に対応できる能力を身につけるため、各種講義や演習を中心とする「専門応用科目」を設置する。
- ③課題の設定から解決までの一連のプロセスを自ら主体的に考え体験学習することによって、論理的思考力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力に加え、高度な技術者・研究者として期待される問題解決へのデザイン能力を身につけるため、「PBL系科目」を設置する。



- ④工学基礎や英語の学力を高める講義による「共通科目」を設置する。また、特許や知的財産などを学び、技術者・研究者としての社会人を身につけるために講義による「社会関係科目」を設置する。
- ⑤各専門分野の学識を深め、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力、創造力を培い、技術者・研究者としての基礎を築き、高度職業人として自立するために必要な素養を身につけるため、企画立案から成果発表までの一連の研究活動を実行する特別研究または長期インターンシップを設置する。また、高い倫理観を涵養するために特別研究においては倫理教育も行う。

学修成果の評価方法

これらの学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。コミュニケーション、ディスカッションおよびプレゼンテーションについては、能力、発表内容、質疑に対する応答内容などから総合的に評価する。

特別研究の学修成果は、発表会、論文、学会などの外部発表などをもとに複数の所定の観点から総合的に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）】

- ①自然や社会に受け入れられるさまざまな優れた機械製品の開発や、製造や保守、またそれらに関連した様々な問題の解決に貢献できる高度な機械技術者・研究者を養成するために必要な、基礎知識と能力を有し、これらの知識や能力を活用する思考力と、さらにそれを達成する意欲と熱意を有する人。
- ②グローバル化に対応できるコミュニケーション能力の基礎を有する人。
- ③論理的思考ができ、創造的な発明、問題の発見、問題解決に喜びを見いだせることができ、また技術を通して社会に貢献する意欲と熱意を有する人。

指導教員の研究室紹介(主な研究指導内容)

2025年4月現在

振動システム実験研究室

川島 豪教授・工学博士

〔博士前期課程〕

- 衝撃制御（セミアクティブチャイルドベッド）に関する研究
- 心地よい揺れを応用したヒューマン-マシンインターフェイスの開発
- 制御を用いた再生可能エネルギーの有効利用に関する研究

〔博士後期課程〕

- 流体関連振動の解析と制御に関する研究
- 非線形システムに関する制御手法の開発と応用に関する研究

ロボット機構学研究室

有川敬輔教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- ロボット機構の設計と制御
- 多自由度機構の最適設計

構造デザイン研究室

渡部武夫教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- 切り紙構造の力学特性とデザイン
- 破壊学と価値を創出する破壊のデザイン

教育用機械情報システム研究室

佐藤智明教授・博士(工学) 博士(人間科学)

〔博士前期課程〕

- 新しい熱機関システムに関する検討
- 教育利用のための機械システム開発とその評価
- 冷媒・燃料の熱物性測定
- CGおよびマルチメディアコンテンツを活用した工学教育教材開発とその評価
- 科学的理論や概念の表現方法に関する認知科学的検討
- 技術遺産のデジタルアーカイブ化に関する検討

〔博士後期課程〕

- 新しい熱機関システムに関する検討
- 教育利用のための機械システム開発とその評価
- 冷媒・燃料の熱物性測定
- CGおよびマルチメディアコンテンツを活用した工学教育教材開発とその評価
- 科学的理論や概念の表現方法に関する認知科学的検討

精密加工研究室

今井健一郎教授・博士(工学)

〔博士前期課程／後期課程〕

- 難削材料の精密研削・切削加工の研究
- 振動援用研削・切削加工の研究

車両運動・制御研究室

山門 誠教授・博士(工学) /

狩野芳郎助教・工学士

〔博士前期課程〕

- ドライビングシミュレータによる運転しやすい車両の研究
- フル・ドライブ・パイ・ワイヤ車両による運動性能向上技術の研究
- 外界センサーを用いた自動運転の研究
- 乗り心地の良い車両の研究
- ドライビングメカニズムの研究

〔博士後期課程〕

- 人間特性に基づく車両結元最適化の研究
- 燃費性能と乗り心地を考慮した自動運転基礎研究
- 運転支援の基礎研究
- 車両運動制御の基礎研究

■ 博士後期課程

【教育目的】

機械工学専攻は、自然や社会に受け入れられる、さまざまな優れた機械系製品の開発や、製造や保守に関連したさまざまな高度な問題を解決するために必要となる卓越した能力と倫理観を有する機械技術者や研究者の育成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①専門性の高い研究者としての高い倫理観を持ち、積極的に高度な挑戦的課題に取り組み、柔軟な発想、思考に基づき、研究・開発の成果を総合的にまとめることができる。
- ②高度な機械工学を多面的な視点から体系的に理解し、幅広い視野で自らの知識を活用し、研究成果を国内外の学会や会議において発表・討議することができる。
- ③独創的な研究能力を備え、高度な研究や開発を担う機械技術者・研究者として、機械製品の開発やそれらに関連する問題の解決や、科学技術の進歩、地球環境や社会の福利に貢献することができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①リサーチワークを通して、高度に専門的な業務に従事するための基礎となる専門分野の高度な知識・技術、ならびに関連分野での知識・技術を体系的に修得し、広い視野と高い俯瞰力を培い、専門性の高い技術者・研究者として、製品開発や関連する問題の解決や科学技術の進歩に貢献できる能力を身につける。
- ②機械工学専門分野およびそれらに関連した学際領域の独創的かつ有意な課題の解決を通して、専門性の高い技術者・研究者として不可欠な問題発見から解決に導く柔軟かつ論理的な思考力を修得し、さらに専門分野の高度な知識を新たな分野へ応用・展開する能力を身につける。
- ③研究成果を学術論文としてまとめ、国内外の学会や会議で発表・討議を行う、プレゼンテーションとコミュニケーションの能力を培う。

学修成果の評価方法

学修成果については、学位論文の内容、国内外における学術会議における研究発表などから、ディプロマポリシーで求められる広い視野、俯瞰力、研究遂行能力、コミュニケーション能力を総合的に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）】

- ①自然や社会に受け入れられる、さまざまな優れた機械製品の開発や、製造や保守、またそれらに関連した様々な問題の解決に貢献できる高度な機械技術者・研究者を養成するために必要な、基礎知識と能力を有し、これらの知識や能力を活用する思考力と、さらにそれを達成する意欲と熱意を有する人。
- ②グローバル化に対応できるコミュニケーション能力の基礎を有する人。
- ③論理的思考ができ、創造的な発明、問題の発見、問題解決に喜びを見いだせることができ、また技術を通して社会に貢献する意欲と熱意を有する人。

博士前期課程

2025年度入学生用カリキュラム

分類	授業科目名	必選別	年次および単位数				備考	
			1年次		2年次			合計
			前	後	前	後		
専門基礎科目	機械システム制御	選択	2				2	
	材料力学特論	選択	2				2	
	流体力学特論	選択	2				2	
	熱力学特論	選択	2				2	
	創造的問題解決法特論Ⅰ	選択	2				2	
	創造的問題解決法特論Ⅱ	選択		2			2	
	シミュレーション技法	選択	2				2	
	エントロピー特論	選択		2			2	奇数年開講
	熱機関特論	選択		2			2	
専門応用科目	ヴィークルダイナミクス特論Ⅰ	選択	2				2	
	ロボット機構学特論	選択		2			2	偶数年開講
	モード解析	選択		2			2	奇数年開講
	精密加工学特論	選択		2			2	偶数年開講
	宇宙機構造機構学特論	選択		2			2	偶数年開講
	燃焼工学特論	選択	2				2	奇数年開講
	流体機械特論	選択	2				2	奇数年開講
	ヴィークルダイナミクス特論Ⅱ	選択		2			2	
	ステアリングシステム開発特論	選択		2			2	
	自動運転要素技術特論	選択		2			2	
	デジタルファブリケーション特論	選択	2				2	
	ワイヤレス技術応用特論	選択	2				2	
PBL系科目	総合プロジェクト	必修	2				2	
共通	特別研究Ⅰ	選択必修			4		4	
	特別研究Ⅱ	必修				4	4	
	長期インターンシップ	選択必修			4		4	

博士後期課程

2025年度入学生用カリキュラム

授業科目名	必選別	年次および単位数			備考
		前	後	合計	
環境エネルギー特論I	選択	2		2	
環境エネルギー特論II	選択		2	2	
知能デザイン特論I	選択	2		2	
知能デザイン特論II	選択		2	2	
先端知能化システム特論I	選択	2		2	
先端知能化システム特論II	選択		2	2	
特別研究	必修	4		4	

2025年4月現在

機械技術教育研究室

門田和雄教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- メカ設計を基軸としたSTEAM探求のカリキュラム開発
- STEAM教育で活用できる珈琲焙煎機の開発
- デジタルファブリケーションを活用したSTEAM教育の開発
- 中学校技術科及び高校工業科のカリキュラム研究と教材開発
- 台湾の自造者教育の調査研究

コネクテッド・モビリティ研究室

菊池典恭教授・博士(工学)／

加藤俊二助教・工学修士

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- コネクテッドカー技術の導入効果の検証
- ドローン、四足歩行ロボットに関する研究
- LiDAR、カメラ、レーダー等による物体検出技術の研究
- 測位技術に関する研究
- 協調型運転システムの研究

燃焼工学研究室

林 直樹教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 浮き上がり火炎の数値解析
 - 素反応を用いた燃焼場の数値計算とモデル化
 - 噴霧燃焼の数値解析
- 〔博士後期課程〕
- 素反応を用いた Triple flame の数値計算
 - カーボンニュートラル対応燃料を用いた燃焼現象の数値解析

モータースポーツ工学研究室

岡崎昭仁准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 高速電動駆動システムに関する研究
- 電動化に対応する高効率エンジン・システムの研究
- 自動車開発を適用した工学教育手法の研究
- 自動車の技術史及び研究開発史に関する研究

電気電子工学専攻

■ 博士前期課程

【教育目的】

電気電子工学専攻は、電力工学、電子物性工学、情報通信工学、そして家電工学などの分野における急速な技術革新に対応するために、教育研究を通して、広い視野で総合的に把握できる応用力と適応性をもつ技術者、研究者を養成することを目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①電気電子工学における基幹となる知識を究め、専門分野における応用技術やスキルを修得し、それらを体系的に理解し、活用することができる。
- ②柔軟な発想力や電気電子工学の幅広い視点を持ち、環境や社会における技術課題の発見や技術ニーズの発掘ができ、解決することができる。
- ③電気電子工学の専門知識を駆使し、情報収集・調査ができ、自ら立案した企画の妥当性を論理的に説明でき、PDCA サイクルで研究活動等を行い、結果をまとめ、成果発表をすることができる。
- ④様々な学習プログラムによって、研究者・高度技術者としての社会人基礎力、コミュニケーション能力や倫理観を修得することができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①講義や演習を中心とする専門基礎科目を通して、電気電子工学の基幹となる電気回路、電子回路および電磁気学に関する理解をより深め、電力工学、電子物性工学、情報通信工学、そして家電工学に関する高度な専門知識を修得し、技術者・研究者として必要な高度な素養を身につける。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。

- ②多様な講義形式による専門応用科目を通して、電力工学、電子物性工学、情報通信工学、そして家電工学の各分野の基盤固めを行い、応用展開していくために必要な能力を身につける。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、総合演習、ミニプロジェクト結果にて評価する。

- ③2-3人のグループ単位で行う総合プロジェクトを通して、電気電子工学の



幅広い視野と俯瞰力をもって、チームワークで課題の発見・設定・解決能力を育成するとともに、論理的思考力・ディスカッション能力・プレゼンテーション能力などを身につけ、社会人も育成する。

学修成果の評価方法

本科目の学修成果は、レポートおよび発表会での発表内容、質疑に対する応答内容などから総合的に評価する。

- ④講義を中心とする共通基礎科目を通して、高度な工学基礎や英語力を高めるとともに、特許や知的財産やMOTなどを学び、技術者、研究者としての社会人基礎力を身につける。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。

- ⑤特別研究や長期インターンシップを通して、電気電子工学における各専門分野の技術課題の発見や技術ニーズの発掘力を身につけ、課題を解決できる発想力や実践力を習得し、研究成果の発表によってコミュニケーション能力、ディスカッション能力・プレゼンテーション能力、技術文章作成能力を磨く。そして研究者や技術者として自立していくための素養を身につける。また、高い倫理観を涵養するために特別研究においては倫理教育も行う。

学修成果の評価方法

学修成果は、発表会、論文または報告書、学会などの外部発表などをもとに複数の所定の観点から総合的に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

- ①研究者、技術者に必要な電気電子工学分野の専門知識やスキルを理解するために必要な数学、電気回路、電子回路と電磁気学の基礎知識を有し、これら知識を活用できる人。
- ②グローバル社会に対応する基礎力をもつ人。
- ③自ら行動し、電気電子工学の問題発見・解決に喜びを見いだせることができ、研究開発や技術発明を通して社会に貢献する意欲をもち、明確な入学の目的を持つ人。

指導教員の研究室紹介(主な研究指導内容)

2025年4月現在

パワーエレクトロニクス研究室

板子一隆教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 太陽光発電システムに関する研究
- 燃料電池発電システムに関する研究
- パワーエレクトロニクス制御に関する研究
- 楽器の音色分析に関する研究

〔博士後期課程〕

- 太陽光発電システムに関する研究
- 燃料電池発電システムに関する研究
- パワーエレクトロニクス制御に関する研究

電気応用研究室

瑞慶覧章朝教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- 大気圧プラズマによる環境改善技術
- 電気集じん装置による微小粒子状物質の除去
- 浮遊ウイルスの除去および不活性化
- コロナ放電空間における浮遊粒子の帯電・軌道シミュレーション

視環境研究室

高橋 宏教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- 有彩色照明光が生体に及ぼす影響に関する研究
- ipRGCが視覚に及ぼす影響に関する研究
- 明るさ知覚に関する研究

非線形波動工学研究室

植原浩一教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- トンネルダイオード線路上のエッジ振動の相互同期現象に関する研究
- 非線形メタマテリアル線路上の自己集束の観測

〔博士後期課程〕

- 進行波型トランジスタに誘起される散逸ソリトンに関する研究
- 非線形ステンシルを用いた有限差分法による低次元半導体プラズマ素子解析に関する研究

電子デバイス研究室

工藤嗣友教授・博士(情報工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕

- 低損失型自己バイアスチャネルMOSダイオードの開発
- 低損失型パワーデバイスの素子開発
- 太陽電池セルの故障検出システムの開発

光機能デバイス研究室

中津原克己教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 光通信ネットワーク用光スイッチ
- 光波長多重通信用可変光フィルタ
- 集積型非相干光デバイス
- スロット導波路型光センサデバイス

●可視光通信システム及び回路

〔博士後期課程〕

- 光機能回路のための異種材料集積技術
- 非相干光デバイスを用いた高機能光集積回路
- スロット導波路型光センサシステム

モビリティ・ITC研究室

高取祐介准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 高度交通システムのための情報通信システム技術に関する研究

デジタル信号処理研究室

宮田統馬准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 可変デジタルフィルタに関する研究
- 機械加工品の不良品判別に関する研究
- 機械学習を用いた識別技術の開発

人間中心家電研究室

奥村万規子教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- アナログ回路シミュレーション
 - ホームネットワーク
 - デジタル家電機器
 - ラインディスプレイ
- 〔博士後期課程〕
- 高周波アナログ回路シミュレーション

■ 博士後期課程

【教育目的】

電気電子工学専攻は、電力工学、電子物性工学、情報通信工学、そして家電工学などの分野における急速な技術革新に対応するために、教育研究を通して、高度な研究能力及び豊かな学識を養い、優れた応用力と高い適応性をもつ研究者を養成することを目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①電気電子工学各分野における高度な知識、応用技術やスキルを体系的に修得し、多様な視点からそれらを十分に活用することができる。
- ②電気電子工学分野において、幅広い視野や高い俯瞰力を持ち、広く社会の諸問題から普遍的意義のある課題の抽出や技術ニーズの開拓ができ、独創的な研究能力を備え、研究活動を実践し、大いに社会に貢献することができる。
- ③研究成果を優れた学術論文としてまとめるとともに、国内外の電気電子工学に関連する専門学会や専門雑誌において、論文発表を行い、優れたコミュニケーション能力を身につけることができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①電力工学、電子物性工学、情報通信工学、家電工学の各専門分野の特論科目を通して、その専門分野における高度な知識やスキルを体系的に習得するとともに、それらを活用・展開する能力を身につける。
- ②特別研究を通して、各専門分野において、普遍的意義のある研究課題の抽出や技術ニーズの開拓を行い、独創的な発想を持ち、PDCA サイクルで研究活動を実践する能力を身につける。
- ③研究成果を学術論文としてまとめるとともに、国内外の電気電子工学に関連する専門学会や専門雑誌において、論文発表を行い、優れたコミュニケーション能力を身につける。

学修成果の評価方法

学修成果については、学位論文の内容、国内外における学術会議における研究発表などから、ディプロマポリシーで求められる広い視野、俯瞰力、研究遂行能力、コミュニケーション能力を総合的に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

- ①研究者に必要な電気電子工学分野の高度な知識やスキルを有して、またこれらの知識を十分に活用できる人。
- ②グローバル社会に対応でき、その素養をもつ人。
- ③論理的な思考力を備え、創造性に富み、探究心を有し、明確な入学の目的を持つ人。

博士前期課程

2025年度入学生用カリキュラム

分類	授 業 科 目 名	必 選 別	年 次 お よ び 単 位 数				備 考	
			1 年 次		2 年 次			合 計
			前	後	前	後		
専門基礎 科目	回路解析特論	選択	2				2	
	計測工学特論	選択	2				2	
	電子回路特論	選択		2			2	
	電気電子制御特論	選択		2			2	
	電気磁気学特論	選択	2				2	
	家電システム工学	選択	2				2	
	半導体デバイス工学特論	選択		2			2	
	C言語による数値計算	選択		2			2	
専門応用 科目	電気電子工学特別演習	必修	1	1			2	
	LSI設計とプロセス技術	選択	2				2	奇数年開講
	光物性工学特論	選択		2			2	偶数年開講
	光通信デバイス特論	選択		2			2	奇数年開講
	ロボット家電	選択	2				2	奇数年開講
	照明・音響工学	選択		2			2	奇数年開講
	ネットワークとHEMS	選択	2				2	偶数年開講
	移動通信システムとその応用	選択		2			2	偶数年開講
PBL系科目	データ解析特論	選択	2				2	奇数年開講
	信号処理論	選択	2				2	偶数年開講
PBL系科目	総合プロジェクト	必修	2				2	
共通	特別研究Ⅰ	選択必修			4		4	
	特別研究Ⅱ	必修				4	4	
	長期インターンシップ	選択必修			4		4	

博士後期課程

2025年度入学生用カリキュラム

授業科目名	必修	年次および単位数			備考
		前	後	合計	
電力工学特論 I	選択	2		2	
電力工学特論 II	選択		2	2	
電子物性工学特論 I	選択	2		2	
電子物性工学特論 II	選択		2	2	
情報通信工学特論 I	選択	2		2	
情報通信工学特論 II	選択		2	2	
家電工学特論 I	選択	2		2	
家電工学特論 II	選択		2	2	
特別研究	必修	4		4	

2025年4月現在

- ホームネットワーク
- ラインディスプレイ

センサと家電研究室

黄 啓新教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕
- セイシング技術及びシステムの開発
 - 複合機能センサーの作製プロセス
- 〔博士後期課程〕
- 異種材料複合機能センサーの開発

知能家電研究室

金井徳兼教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕
- レゴ ブロックを活用した STEM 教材の開発
 - ホームロボットシステムの開発
 - 初学者向けプログラミング学習支援システムの開発
- 〔博士後期課程〕
- 人・環境に対応した家電製品の機能の開発
 - スマートブロックの工学システムへの応用
 - 生活空間の埃分布計測に関する研究

システムエネルギー学研究室

広井賀子教授・博士(医学)

- 〔博士前期課程／博士後期課程〕
- 自然電源を利用したセンサ情報の取得と応用

- 生活関連作業の自動化機器開発
- 電子デバイスを用いた知覚環境再構成の心理学的効用探究
- 生態情報のデータドリブンモデリング

ユビキタスコンピューティングシステム研究室

安部恵一教授・博士(情報学)

- 〔博士前期課程／博士後期課程〕
- バッテリーレス型省電力無線センサネットワークとクラウドサービスを用いた土砂災害遠隔監視システムの研究
 - IoT 基盤技術を活用したコンシューマ・エレクトロニクスの研究
 - 生成 AI サービスを用いた音声対話システムの研究開発
 - 衛星通信システムを活用した大規模災害時避難所支援システムの研究開発

照明工学研究室

三栖貴行教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕
- 微細藻類育成に有効な発光スペクトルの検討
 - 和ろうそくの炎形状と揺らぎを表現可能なフォグスクリーン型 LED 照明の開発
 - 近紫外線 LED による除菌効率向上のためのパルス点灯方式の検討
 - 高出力 LED を内包した多面体折り紙ランプ

シェードによる新しい照明器具の検討
〔博士後期課程〕

- 電化製品内部の除菌を目指した近紫外線および深紫外線 LED の除菌効果と樹脂材料への影響の考察
- アロマオイルを噴霧可能なフォグスクリーン型 LED キャンドルデバイスの癒し効果の検証

IoT プログラミング研究室

杉村 博教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程／博士後期課程〕
- 未来住空間システムの開発
 - 情報家電への人工知能技術の適用
 - 時系列データマイニングを用いた予測と制御

コミュニケーションロボティクス研究室

山崎洋一准教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕
- 生活を支援するホームロボットの研究開発
 - 人をつなぐエージェントシステム
 - ロボットの感情表出による認知機能への影響
 - ロボットによる非言語表出の研究

応用化学・バイオサイエンス専攻

■ 博士前期課程

【教育目的】

応用化学・バイオサイエンス専攻は、無公害化・省資源・省エネルギーを基本とした化学プロセスの開発、高機能材料の開発・機能性分子の創生・生物機能の解明と利用、バイオテクノロジーなど諸分野にわたる幅広い基礎知識と応用力を養い、将来、有能な技術者として活躍でき、かつ創造力と豊かな人間性を有した人材の養成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ① 応用化学・バイオサイエンス分野に関する基礎的知識を習得し、それに係る技術を身につけ、さらに、それらを自らの研究に応用することができる。
- ② 応用化学・バイオサイエンス分野を含む多分野にわたる諸問題の中から課題となる点を見出し、自らの研究シーズとすることができる。
- ③ 自ら見出した課題（シーズ）に対して、応用化学・バイオサイエンス分野における基礎力、技術を応用する力を用いて、解決方法を提案することができる。
- ④ 応用化学・バイオサイエンス分野において、提案すべき解決方法を論理的に他に伝え、十分に議論することができる。また得られた成果を一般にアピールできる。
- ⑤ 社会から要求される倫理観を認識する事ができ、それを伴って研究、議論を行うことができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ① 応用化学および生命科学の分野の多彩な「専門基礎科目」の各種講義を通して、応用化学・バイオサイエンス分野の技術者・研究者として必要かつ十分な基礎知識をおよび科学技術を習得する。

学修成果の評価方法

- これらは、課題、試験、プレゼンテーションなどの結果を総合的に判断して評価する。
- ② 「専門応用科目」の各種講義を通して、将来、技術者・研究者として活躍するため、基礎力を応用する力、多分野にわたる課題の発見および解決する能力を涵養する。

学修成果の評価方法

これらは、課題、試験、プレゼンテーションなどの結果を総合的に判断して評価する。

- ③ 「PBL系科目」の講義および演習を通して、複数指導教員体制のもと、総合プロジェクトの課題に取り組むことで、多分野に於ける課題の発見、解決方法の習得、組織で活躍するための論理的なコミュニケーション能力を身につける。

学修成果の評価方法

これらは、課題およびプレゼンテーションにより評価する。

- ④ 「共通基礎科目」の講義を通して、多くの工学基礎や英語におけるコミュニケーションの技法を習得する。また、社会関係科目を通して、社会人に必要な倫理観を身につける。

学修成果の評価方法

これらは、課題、試験、プレゼンテーションなどの結果を総合的に判断して評価する。

- ⑤ 特別研究または長期インターンシップなどの実践的な研究活動を通して、各専門分野の知識を深めることはもとより、コミュニケーション能力、ディスカッション能力・プレゼンテーション能力を磨き、研究者としての基礎を築くとともに、社会から要請される倫理観を培う。

学修成果の評価方法

これらは、一定期間後に提出される論文、プレゼンテーションにより評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

- ① 学士課程終了時において、応用化学、バイオサイエンス分野における化学、生物、栄養の分野に関し、物質・材料工学、環境・健康プロセス工学、生物・細胞工学、食品・栄養工学に代表される科目に対して、必要とされる十分な基礎知識を有している人。
- ② 応用化学・バイオサイエンス分野に関して、基礎的な英語能力を有している人。
- ③ 学士卒業時において、必要とされる社会人基礎力、倫理観を身につけ、かつ、課題発見・解決能力の基礎となるべき方法論を実践し、今後も自らに課題を課し、意欲的に学習することのできる人。

指導教員の研究室紹介(主な研究指導内容)

2025年4月現在

食品高分子化学研究室

清水秀信教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ● 機能性食品のカプセル化 ● 抗酸化性を有する高分子材料の創製 ● 食品添加物による感温性高分子の機能制御

有機合成化学研究室

山口淳一教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ● 生物活性が期待できる新規化合物の合成研究 ● 新しい不斉合成反応の開発 ● アズレンを含む新規芳香族化合物の合成研究

有機材料研究室

森川 浩教授・博士(薬学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ● テルペン由来物質の反応法の開拓 ● バイオマス資源由来の高分子の合成 ● 開環化合物を有する高分子の合成 ● pHや温度に応じて性質を変える高分子の開発 ● CO₂を原料とする材料開発および化学反応の探索

無機材料化学研究室

村山美乃教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ● 担持金属ナノ粒子の合成と構造解析 ● 放射光X線を使った動的構造変化の計測 ● 金属ナノ粒子による食品の香りの制御 ● 高温でも作動する長寿命蓄電池の開発 ● 光触媒による新しい脱硫反応の開発

環境高分子化学研究室

和田理征准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ● 抗菌活性を有する高分子ゲル材料の開

発 ● 特定物質を吸着する機能性材料の創製 ● 高分子ゲルの構造と物性評価

生物制御科学研究室

飯田泰広教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ● 酵素阻害剤評価法の開発とスクリーニング ● 微量生理活性物質の評価法の開発とバイオセンシング ● 真菌における先端輸送評価法の開発と抗真菌剤のスクリーニング ● メチル化酵素の機能改変とエピジェネティック研究への応用

分子機能科学研究室

小池あゆみ教授・博士(理学)

〔博士前期課程〕 ● タンパク質の立体構造形成を助ける分子シャペロンの作用機構の解明 ● ファージ感染や自然形質転換に関わるIV型線毛複合体の構造と機能の解析 ● 天然ゴム生成経路の解明
〔博士後期課程〕 ● 分子シャペロンの反応機構の解明およびその応用

植物細胞工学分室

岩本 嗣教授・博士(農学)

〔博士前期課程〕 ● 組織培養による有用植物の大量繁殖 ● 培養変異を利用した植物の改良 ● 栽培植物と近縁野生種の種間雑種の作出

時空間細胞生物学研究室

村田 隆教授・理学博士

〔博士前期課程〕 ● 細胞小器官の光操作法の開発 ● 微細藻類の環境応答機構の解明 ● 微細藻類の細胞分裂機構の解明

〔博士後期課程〕 ● 植物細胞の微細管構築機構の解明

老化・疾患生物学研究室

井上英樹教授・博士(理学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ● 老化制御機構に関与する細胞内シグナル伝達機構の解析 ● 老化抑制に関与する生理活性物質の探索と機能解析 ● エネルギー代謝に関与する生理活性物質の作用機序解析

酵素工学分室

山村 晃准教授・博士(材料科学)

〔博士前期課程〕 ● バイオリクターによる生理活性物質の生産 ● センシングのための新規酵素の探索 ● 酵素の大量発現系の構築と遺伝子置換による酵素化学的特性の改変 ● バイオ電池の開発

水産化学研究室

小澤秀夫准教授・博士(農学)

〔博士前期課程〕 ● 赤身魚の鮮度低下メカニズムの解明 ● シーフードの低アレルギー化 ● タンパク質のシミュレーション

神経生物学研究室

山下直也准教授・博士(医学)

〔博士前期課程〕 ● 神経細胞内の物流システムに着目した脳形成機構の解明とその医療応用 ● 物流管理システムを介した神経回路網形成の分子機構 ● 神経細胞内の物流トラブルによるアルツハイマー病発症の分子機構 ● 物流トラブルに着目した新しいアルツハイマー病の診断・予防・治療法の探索

■ 博士後期課程

【教育目的】

応用化学・バイオサイエンス専攻は、環境調和に基幹をいた先進的な化学プロセスの開発、付加価値の高い機能性材料・機能性分子の創生、生物機能の解明と利用、バイオテクノロジーなど、高度に専門的な知識の習得とそれらを研究に応用する力を養成し、研究者として独立し、十分に活躍できる専門技術者の養成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①化学およびバイオテクノロジー関連分野において、他者との議論を交しながら、産業的または学術的観点から新たな研究課題を見つけたし、課題の中心となる問題点を指摘できる。
- ②化学およびバイオテクノロジー関連分野において、高度な専門知識を身に付けて、与えられた課題の問題について解決できる。
- ③化学およびバイオテクノロジー関連分野において、高度な学術論文を執筆でき、他者との議論を通じ、研究内容の研鑽ができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①授業科目を通して、応用化学および生命科学の分野の高度な知識を修得するとともに、将来実践的技術者または自立した研究者として活躍するための調査する力、問題を解決する力を身につける。

学修成果の評価方法

- ①これらは課題の提出やプレゼンテーションにより、評価する。
- ②特別研究を通して、研究内容の高度な議論を行い、結果として独創的な研究を自ら推進できる能力を身につける。

学修成果の評価方法

これらは、論文執筆、海外での研究発表により評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）】

応用化学・バイオサイエンス専攻では以下のような入学者を求めています。

- ①応用化学、バイオサイエンス分野において、化学、生物、栄養の分野に関し必要とされる博士前期課程終了時において必要な基礎的知識、実験技術を有している人。
- ②専門分野における調査能力および課題発見能力を有しており、それら能力をさらに伸ばす事に熱意のある人。
- ③研究などを通じて、研究倫理については概要を身につけ、研究の概要を他者に論理的に説明でき、英語を用いてその概要を執筆できる人。

博士前期課程

2025年度入学生用カリキュラム

分類	授業科目名	必選	年次および単位数					備考
			1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	合計	
専門基礎科目	有機化学特論	選択		2			2	
	高分子化学特論	選択	2				2	
	環境化学特論	選択	2				2	
	生物化学特論	選択	2				2	
	細胞生物学特論	選択	2				2	
	食品栄養学特論	選択	2				2	
	理科特別実験	選択	4				4	
専門応用科目	無機合成化学特論	選択	2				2	奇数年開講
	環境毒性学	選択		2			2	偶数年開講
	反応工学特論	選択		2			2	
	生体応答学	選択		2			2	
	微生物制御学	選択	2				2	
	栄養科学特論	選択		2			2	
	食行動科学特論	選択		2			2	奇数年開講
PBL系科目	植物細胞工学特論	選択		2			2	
	総合プロジェクト	必修	2				2	
共通	特別研究Ⅰ	選択必修			4		4	
	特別研究Ⅱ	必修				4	4	
	長期インターンシップ	選択必修			4		4	

博士後期課程

2025年度入学生用カリキュラム

授業科目名	必選	年次および単位数			備考
		前	後	合計	
応用化学・バイオサイエンス特論Ⅰ	必修	2		2	
応用化学・バイオサイエンス特論Ⅱ	必修		2	2	
特別研究	必修		4	4	

2025年4月現在

繁殖生態学研究室

柴田大輔准教授・博士(理学)

〔博士前期課程〕 ●三浦半島周辺における棘皮動物相 ●オーストンフクロウの発生および生殖 ●南極産ウニの繁殖生態学的研究 ●ヤツヒトデの有性生殖および無性生殖に関する研究

膜分離工学研究室

市村重俊教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●機能性分離膜の開発と水処理への応用 ●バイオマテリアルの開発と医療への応用 ●膜分離法を利用した海水総合利用プロセスの検討 ●膜ろ過法によるナノマテリアルの分離精製 ●機能性材料の構造および物性の評価と制御

環境化学・環境生物研究室

齋藤 貴教授・工学博士

〔博士前期課程〕 ●環境分析化学と環境保全 ●有用微生物の探索 ●機能性材料の開発
〔博士後期課程〕 ●機能性材料の開発と応用 ●環境分析と環境保全法の開発 ●有用微生物の探索と毒性評価

環境と生体影響研究室

高村岳樹教授・博士(理学)

〔博士前期課程〕 ●環境中の有害化学物質の同定検索 ●環境水中の金属イオン動態解析 ●環境汚染物質のDNAの修飾と変異メカニズムの解明 ●DNA付加体の効率的合成法の開発 ●環境発がん物質の生体評価
〔博士後期課程〕 ●環境、食品中の遺伝毒性物質の生態影響

微生物工学研究室

仲亀誠司教授・Ph.D.

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●バイオリファインリー ●バイオレメディエーション

資源エネルギーシステム研究室

大庭武泰准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●化学システム構築 ●プロセス制御

栄養教育研究室

饗場直美特任教授・医学博士

〔博士前期課程〕 ●食機能と健康影響評価

栄養化学研究室

清瀬千佳子教授・博士(学術)

〔博士前期課程／博士後期課程〕
〈食品成分の生体における新規機能性の評価と解明〉
●抗肥満効果を示す食品成分の同定 ●肥満から誘導される炎症を改善する食品成分の探索 ●パフォーマンス向上サプリメント開発における食品成分の探索

食品衛生学研究室

澤井 淳教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●天然無機材料を利用した微生物制御 ●食品及び環境における微生物の生態解析 ●新規な微生物制御法の開発と応用 ●食品中における薬剤耐性菌の検出と殺菌手法の開発 ●微量熱量計を用いた微生物の簡易迅速計測・検出
〔博士後期課程〕 ●無機系抗菌材料の開発と応用 ●環境中における微生物の分布および存在状態の解析 ●新規な微生物制御法の開発と応用

基礎栄養学研究室

花井美保教授・博士(栄養学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●生活リズム攪乱によって惹起される生殖器官発達抑制と摂取栄養素の関連に関する影響-モデルラットを用いる検討- ●メタボリックシンドロームと生活リズムの関連に対するモデルラットを用いる基礎研究 ●摂食リズムと生活リズムの関連に対するモデルラットを用いる基礎研究

給食経営管理研究室

大澤絢子教授・博士(学術)

〔博士前期課程〕 ●給食生産システムにおける最適調理条件の検討 ●給食生産システムにおける食品成分の化学的变化について ●調理加工による食品色素成分の化学的变化について

臨床栄養・健康科学研究室

澤井明香准教授・博士(医学)

〔博士前期課程〕 ●健康（栄養）管理ツールの開発と臨床応用 ●精神ストレスの客観評価と栄養管理 ●脳および循環機能と食事の関連性の検討 ●咀嚼、味覚の簡易客観評価と臨床応用

食品学・薬理学研究室

宮本理人准教授・博士(医学)

〔博士前期課程〕 ●代謝疾患、特に肥満や糖尿病の病態生理学的研究 ●中枢末梢連関を介した生体内エネルギー代謝調節機構の研究 ●非薬物療法の分子機序解明とそれに基づく創薬、薬物治療研究

情報工学専攻

■ 博士前期課程

【教育目的】

情報工学専攻は、広い視野に立って精深な学識を授け、情報工学専攻分野における研究能力又はこれに加えて情報・通信・メディアに関する高度の専門性が求められる職業を担うための高い能力と倫理観を有する人材の育成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①情報をベースとする研究者、技術者の職業を担うために必要な情報工学専攻分野における基礎的知識・技術や応用的知識・技術を身につけ、それらを体系的に理解しており、かつそれらの知識や技術を問題解決のため活用することができる。
- ②幅広い視野や俯瞰力から情報・通信・メディアに関する技術課題を発見したり、技術ニーズを掘り起こしたりすることができる。
- ③情報・通信・メディアに関する技術課題を設定し解決法を提案して研究を企画でき、企画した研究を実践することができる。
- ④情報・通信・メディアに関する専門知識に基づいて自らの思考や立案の妥当性を理論的に説明し、議論することができ、また、自ら遂行した研究、開発、調査等の成果を英文も含め、文章としてまとめることができる。
- ⑤研究者、技術者として社会の健全な発展に貢献するため高い倫理観に基づいた判断ができる。

なお、博士前期課程においては、情報工学専攻分野には、1) 計算機システム、2) 情報認識工学、3) 情報通信工学、4) 情報システム工学、5) メディア技術、6) メディアコンテンツに関わる諸分野がそれぞれ含まれる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①情報工学専攻分野における基礎的知識・技術や応用的知識・技術を身につけるとともに、それらを体系的に理解させ、その応用力を育成するため、各種講義や演習を中心とする基礎科目系と応用科目系からなる専攻分野のコースワークを設置する。

学修成果の評価方法

- 本コースワークの学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。
- ②情報・通信・メディアに関する専門分野にとらわれない幅広い視野や俯瞰



力を身に付けるため、講義による研究科の共通基礎科目群を設置する。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。

- ③情報をベースとする課題解決能力、実践的能力、プロジェクト企画力、チームワーク力等の社会人力等を育成するため、PBL 教育を中心とする総合プロジェクトやインターンシップを設置する。

学修成果の評価方法

本科目の学修成果は、レポートおよび発表会での発表内容、質疑に対する応答内容などから総合的に評価する。

- ④情報をベースとする課題解決能力、研究企画力、実践能力、自らの思考や立案を理論的に説明して議論できる能力や研究、開発、調査等の成果をまとめ口頭や文章で表現する能力などのコミュニケーション能力を育成するため、企画立案から成果発表までの一連の研究活動を実行する特別研究を設置する。また、高い倫理観を涵養するために特別研究においては倫理教育も行う。

学修成果の評価方法

特別研究の学修成果は、発表会、論文、学会などの外部発表などをもとに複数の所定の観点から総合的に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

- ①情報をベースとする研究者、高度技術者に必要な情報・通信・メディアに関する専門知識や技能を習得したり理論を理解するために必要な学士課程で形成されるべき基礎的知識と能力を有する人。さらに、これらの知識や能力を活用できる思考力を有する人。
- ②情報・通信・メディアに関する国際交流に対応できるコミュニケーション能力の基礎を有する人。
- ③論理的思考ができ、創造的な発明、問題の発見、問題解決に喜びを見いだせることができ、また情報・通信・メディアに関する技術を通して社会に貢献する意欲をもち、これらを含めて明確な入学の目的をもつ人。

指導教員の研究室紹介(主な研究指導内容)

2025年4月現在

知能情報処理研究室

松本一教教授・博士(理学)

- 〔博士前期課程〕 ●オブジェクト&エージェントシステムの研究 ●金融情報システムに関する研究
〔博士後期課程〕 ●情報システムの分散・並列化技術 ●オブジェクト指向設計法

知識処理システム研究室

陳 幸生教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●人工知能及びクラウドコンピューティングに関する研究 ●高速人工知能の演算処理方式に関する研究 ●人工知能と組み込みシステムの応用開発
〔博士後期課程〕 ●知能情報の獲得及び分析方法の研究 ●知能データベースの構築に関する研究 ●人工知能と組み込みシステムに関する研究

ビジュアルコンピューティング研究室

佐藤 尚教授・博士(理学)

- 〔博士前期課程〕 ●CGアニメーションに関する研究 ●ノンフォトリリスティックレンダリングに関する研究 ●インタラクティブシステムに関する研究
〔博士後期課程〕 ●CGアニメーションに関する研究 ●ノンフォトリリスティックレンダリングに関する研究 ●インタラクティブシステムに関する研究

情報通信研究室

田中 博教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●IoTシステムデザインとその応用に関する研究 ●ワイヤレス通信システムに関する研究 ●ヒューマンインタフェースに関する研究
〔博士後期課程〕 ●IoTシステムデザインとその応用に関する研究 ●ワイヤレス通信システムに関する研究

- ヒューマンインタフェースに関する研究

信号処理応用研究室

木村誠聡教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●デジタル画像処理アルゴリズムの研究 ●FPGAを用いた信号処理応用システムの研究 ●組み込み機器応用システムの研究
〔博士後期課程〕 ●デジタル画像処理アルゴリズムの研究 ●FPGAを用いた信号処理応用システムの研究 ●組み込み機器応用システムの研究

対話型システム研究室

納富一宏教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●インタラクティブシステムに関する研究 ●計算機システムの運用管理に関する研究 ●情報セキュリティ技術に関する研究
〔博士後期課程〕 ●インタラクティブシステムに関する研究 ●計算機システムの運用管理に関する研究 ●情報セキュリティ技術に関する研究

コンピューターグラフィックス研究室

服部元史教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●3DCG理論を深めながら テクニカル・アート ●インターネット仮想空間と現実の物理空間との融合 ●立体音響・香り・味・手触りを仮想VR空間で活用する
〔博士後期課程〕 ●香り VR 嗅覚ディスプレイ開発 ●味 VR 味覚ディスプレイ開発

ソフトウェア工学研究室

田中哲雄教授・博士(情報科学)

- 〔博士前期課程〕 ●ソフトウェア開発技術の研究 ●データ管理、活用技術の研究 ●Web応用技術の研究

- 学習支援システムの研究

- 〔博士後期課程〕 ●ソフトウェア開発技術の研究 ●データ管理、活用技術の研究 ●Web応用技術の研究 ●学習支援システムの研究

数値画像情報学研究室

辻 裕之教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●ボケと雑音が重畳した劣化画像の修復に関する研究 ●画像からのオブジェクト抽出に関する研究 ●画像処理に関わる数値アルゴリズムの研究
〔博士後期課程〕 ●ボケと雑音が重畳した劣化画像の修復に関する研究 ●画像からのオブジェクト抽出に関する研究 ●画像処理に関わる数値アルゴリズムの研究

モバイルネットワーク研究室

塩川茂樹教授・博士(工学)

- 〔博士前期課程〕 ●ワイヤレスセンサネットワークにおける省電力化方式 ●情報指向型モバイルネットワークにおけるコンテンツ取得方式
〔博士後期課程〕 ●ワイヤレスセンサネットワークにおける省電力化方式 ●情報指向型モバイルネットワークにおけるコンテンツ取得方式

言語設計学研究室

五百蔵重典教授・博士(情報科学)

- 〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●プログラミング言語処理系に関する研究 ●ユビキタスコンピューティングの研究 ●ソフトウェアの高信頼性に関する研究

■ 博士後期課程

【教育目的】

情報工学専攻は、広い視野に立って精深な学識を授け、情報工学専攻分野において研究者として自立して研究活動を行い、情報・通信・メディア・生活支援に関する高度で専門的な業務に従事するために必要となる卓越した能力と倫理観を有する人材の育成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①自己の情報・通信・メディア・生活支援に関する専門分野における高度な知識・技術、ならびに関連分野での知識・技術を体系的に修得し、多様な視点から多角的な議論や俯瞰的な技術評価ができる。
- ②広い視野と高い俯瞰力によって普遍的意義のある情報・通信・メディア・生活支援に関する課題の抽出や技術ニーズを開拓するとともに課題解決に向けた手法を発想、企画して研究を自立して実践できる。
- ③優れた情報・通信・メディア・生活支援に関する学術論文を執筆するとともに、国内の学会や国際会議において自立的に論文発表ができるとともに高度な研究討論を行うことができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①情報・通信・メディア・生活支援に関するコースワークやリサーチワークを通して研究開発職など高度に専門的な業務に従事するための基礎となる専門分野における高度な知識・技術、ならびに関連分野での知識・技術を体系的に修得し、広い視野と高い俯瞰力を培う。
- ②情報・通信・メディア・生活支援に関するリサーチワークを通して広い視野や俯瞰力によって普遍的意義のある課題の抽出や技術ニーズを開拓するとともに課題解決に向けた手法を発想し研究を主体的に企画して実践できる能力を培う。
- ③情報・通信・メディア・生活支援に関する学術論文の執筆や、情報・生活支援をベースとした学会での論文発表を行い、国内外においてコミュニケーションを行う能力を培う。

学修成果の評価方法

学修成果については、学位論文の内容、国内外における学術会議における研究発表などから、ディプロマポリシーで求められる広い視野、俯瞰力、研究遂行能力、コミュニケーション能力を総合的に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

- ①情報・通信・メディア・生活支援に関する幅広い専門知識と高度な技術を有し基礎的な研究能力を備え、具体的な問題への応用力を有している人。
- ②論理的思考力を備え、創造性に富み、探究心を有している人。
- ③情報・通信・メディア・生活支援に関する専門分野における国際コミュニケーション能力を有している人。

2025年4月現在

モバイルコンピューティング研究室

清原良三教授・博士(情報科学)

〔博士前期課程〕 ●モバイルコンピューティング一般、モバイルアプリケーションに関する研究 ●ITS、テレマティクスサービスに関する研究 ●交通シミュレーションに関する研究 ●携帯電話等のコンシューマデバイスに関する研究

〔博士後期課程〕 ●モバイルコンピューティング一般、モバイルアプリケーションに関する研究 ●ITS、テレマティクスサービスに関する研究 ●交通シミュレーションに関する研究 ●携帯電話等のコンシューマデバイスに関する研究

経営システム工学研究室

稲葉達也教授・博士(政策・メディア)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●情報技術の産業応用に関する研究 ●情報技術の社会受容に関する研究 ●情報技術活用に関する企業の実例研究

無線通信理論研究室

鳥井秀幸教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●CDMAシステムの研究 ●デジタル変調方式の研究 ●MIMO-OFDMシステムの研究

応用情報システム(自律、モノの流れ、音楽) 研究室

白杵 潤教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●ドローンを用いた倉庫の自律管理と協調作業 ●空書を用いた非接触での機器操作法の研究 ●DSによるテーマパーク訪問経路と満足度の研究 ●MIDI鍵盤を用いた演奏技術上達支援法の研究

博士前期課程

2025年度入学生用カリキュラム

分類	授業科目名	必須	年次および単位数			備考
			1年次 前	2年次 後	合計	
専門基礎科目	コンピュータアーキテクチャ特論	選択	2		2	奇数年開講
	インタラクティブシステム設計特論	選択	2		2	偶数年開講
	数値計算処理特論	選択	2		2	偶数年開講
	コンピュータ言語特論	選択	2		2	奇数年開講
	メディアシステム特論	選択	2		2	奇数年開講
	画像映像解析特論	選択	2		2	奇数年開講
	エンタテインメント技術特論	選択	2		2	奇数年開講
	画像認識工学特論	選択	2		2	奇数年開講
	IoTシステムデザイン特論	選択	2		2	
	応用音響工学特論	選択	2		2	偶数年開講
	インターネットセキュリティ特論	選択	2		2	奇数年開講
	情報モデル論特論	選択	2		2	偶数年開講
	知的生産システム工学特論	選択	2		2	偶数年開講
	情報ネットワーク設計特論	選択	2		2	奇数年開講
	インタラクションデザイン特論	選択	2		2	偶数年開講
専門応用科目	メディア設計特論	選択	2		2	奇数年開講
	XR空間デザイン特論	選択	2		2	奇数年開講
	知的情報システム	選択	2		2	
	認知行動科学特論	選択	2		2	
	応用情報技術(認定科目)	選択			2	
	ソフトウェア工学特論	選択	2		2	奇数年開講
	人工生命創発システム特論	選択	2		2	偶数年開講
	ネットワークアプリケーション特論	選択	2		2	奇数年開講
	コンピュータグラフィックス特論	選択	2		2	奇数年開講
	文字認識特論	選択	2		2	偶数年開講
	統計的機械学習特論	選択	2		2	偶数年開講
	流通情報システム特論	選択	2		2	偶数年開講
	移動体通信特論	選択	2		2	偶数年開講
	ワイヤレス通信特論	選択	2		2	偶数年開講
	セキュリティ応用特論	選択	2		2	奇数年開講
PBL系科目	パターン認識・理解特論	選択	2		2	奇数年開講
	Web行動解析特論	選択	2		2	奇数年開講
	ソフトコンピューティング特論	選択	2		2	奇数年開講
	スポーツ情報科学特論	選択	2		2	偶数年開講
	コミュニケーションソフトウェア特論	選択	2		2	偶数年開講
	ホームネットワーク特論	選択	2		2	奇数年開講
	プロシージャルコンテンツ制作	選択	2		2	偶数年開講
	人間機械共生工学	選択	2		2	
	高度情報技術(認定科目)	選択			2	
	総合プロジェクト	必修	2		2	
共通	特別研究Ⅰ	選択必修		4	4	
	特別研究Ⅱ	必修		4	4	
	長期インターンシップ	選択必修		4	4	

博士後期課程

2025年度入学生用カリキュラム

授業科目名	必須	年次および単位数			備考
		前	後	合計	
先端情報工学特論Ⅰ	選択	2		2	
先端情報工学特論Ⅱ	選択		2	2	
先端情報メディア特論Ⅰ	選択	2		2	
先端情報メディア特論Ⅱ	選択		2	2	
先端生活支援システム特論Ⅰ	選択	2		2	
先端生活支援システム特論Ⅱ	選択		2	2	
特別研究	必修	4		4	



指導教員の研究室紹介(主な研究指導内容)

2025年4月現在

画像情報処理システム研究室

宮崎 剛教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●聴覚障害者・発話障害者の支援システムに関する研究 ●画像に基づく情報伝達システムに関する研究 ●画像を用いたトレーニング教材に関する研究 ●画像中の物体検出と認識に関する研究

可視光と不可視光の画像処理・認識技術研究室

西村広光教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●手話などの画像認識の研究 ●紫外線・赤外線画像処理の研究 ●画像によるユーザ認証の研究 ●ヒューマンインタフェースの研究

スポーツ情報科学研究室

谷代一哉教授・博士(体育科学)

〔博士前期課程〕 ●生体情報とスポーツパフォーマンスに関する研究 ●動作解析とスポーツパフォーマンスおよびトレーニングについて ●スポーツ画像情報とスポーツパフォーマンスに関する研究
〔博士後期課程〕 ●生体データとスポーツパフォーマンスのメカニズムに関する研究 ●スポーツ動作の解析と筋機能およびそのメカニズムについて ●生体情報分析とスポーツパフォーマンスの関連について

データベースシステム研究室

鷹野孝典教授・博士(政策・メディア)

〔博士前期課程〕 ●マルチメディア・データベースシステム ●モバイル・データベースシステム ●利用者の行動情報やコンテキストに着目した情報推薦 ●画像によるユーザ体験を高める学習支援システム ●Web検索エンジン
〔博士後期課程〕 ●マルチメディア・データベースシステム ●モバイル・データベースシステム ●利用者の行動情報やコンテキストに着目した情報推薦 ●ユーザ体験を高める学習支援システム ●Web検索エンジン

セキュア・バリアフリー研究室

岡本 学教授・博士(国際情報通信学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●セキュア情報バリアフリー研究 ●新たな本人性認証方式の研究 ●肢体不自由者向け支援技術研究

コンピュータウイルス対策研究室

岡本 剛教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●マルウェア対策技術の研究 ●サイバーセキュリティ技術の研究 ●生物指向アプローチによる情報システムの研究
〔博士後期課程〕 ●マルウェア対策技術の研究 ●サイバーセキュリティ技術の研究 ●生物指向アプローチによる情報システムの研究

メディア認識理解研究室

森 稔教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●メディア認識・理解技術の研究 ●機械学習技術の研究 ●メディア認識・機械学習技術の実社会への適用・応用
〔博士後期課程〕 ●メディア認識・理解技術の研究 ●機械学習技術の研究 ●メディア認識・機械学習技術の実社会への適用・応用

画像処理・画像認識研究室

春日秀雄教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●キータイピング時の骨格情報による個人識別 ●姿勢推定技術を用いた運動の解析

Web工学研究室

大塚真吾教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●SNSを利用した行動促進情報の抽出に関する研究 ●QOL向上のための癒し空間創成に関する研究 ●IoTを活用した農家支援に関する研究 ●Web空間からの人間関係抽出に関する研究
〔博士後期課程〕 ●SNSを利用した行動促進情報の抽出に関する研究 ●QOL向上のための癒し空間創成に関する研究 ●IoTを活用した農家支援に関する研究 ●Web空間からの人間関係抽出に関する研究

モバイル・xRコンピューティング研究室

酒井雅裕教授・博士(情報科学)

〔博士前期課程〕 ●エンタテインメント技術と応用に関する研究 ●医療等産業分野におけるVR・深層学習応用の研究 ●電子的認知行動療法支援システムの開発と評価

インタラクションデザイン研究室

鈴木 浩教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●先端技術を利用したワークショップシステムの研究 ●アナログメディアを利用したインタラクティブシステムの研究 ●インタラクティブコンテンツ制作技術の研究

IoTシステム研究室

川喜田佑介教授・博士(政策・メディア)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●IoTシステムの設計とその応用に関する研究

生活支援メディア研究室

渡部智樹教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●IoTを活用して日常生活の行動や人の状態を理解する研究 ●さりげなく人に気づきを与え、行動や思考を後押しする研究 ●既設のIoTを安心安全に利用する研究 ●モノとITを効果的に連携するシステムの研究

情報サービスシステム研究室

凌 曉萍准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●SNS利用における心理的安全性のための情報処理に関する研究 ●ウェルビーイングな生活支援のための情報処理に関する研究 ●データの分析と応用方法に関する研究 ●分散環境における情報サービスに関する研究 ●生成AIを導入した情報サービスに関する研究
〔博士後期課程〕 ●情報サービス全般 ●ウェルビーイングに関する情報処理の研究 ●データ活用に関する研究 ●人間と情報サービスの関係性に関する研究 ●AI、A-Life、生成AIと情報サービスの可能性に関する研究

情報システム評価研究室

井家 敦准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●情報通信システムの性能評価アルゴリズムに関する研究 ●生産物流システムの最適化・性能評価に関する研究 ●大規模クラウド基盤による利用した最適化問題の高速解法アルゴリズムに関する研究

知的システム工学研究室

須藤康裕准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●ファジィシステムの応用に関する研究 ●無線センサネットワークの応用技術

コミュニケーションソフトウェア研究室

岩田 一准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●情報倫理および情報技術教育の支援に関する研究 ●情報サービスのユーザビリティ(使いやすさ)に関する研究 ●ソフトウェアの開発支援手法に関する研究 ●ネットワーク環境設定の支援に関する研究

応用音響工学研究室

上田麻理准教授・博士(工学)

〔博士前期課程／博士後期課程〕 ●音声・聴覚情報を含む音響工学とその応用に関する研究

xR空間デザイン・建築情報研究室

北本英里子准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕 ●情報技術を活用した建築・都市・空間のデザインの提案 ●xR空間における「身体と空間」の拡張 ●ビジュアライゼーション・プレゼンテーション手法の開発
〔博士後期課程〕 ●空間情報科学を基盤としたインタラクティブなデザインの生成 ●コンピューショナルデザインにおけるデザインプロセスの検討 ●建築・都市を対象にした心理的空間と物理的空間の構成要素の把握

ゲーム開発研究室

Brandse Michael Adriaan Joha准教授・博士(芸術工学)

〔博士前期課程〕 ●ゲームデザインユーザビリティとUXに関する研究

ライフサポート工学研究室

松田康広教授・博士(環境学)

〔博士後期課程〕 ●コミュニケーション支援システムの開発 ●皮膚接触による感情伝達に関する研究 ●指点字の打点教示・認識システムの開発

運動機能評価研究室

高橋勝美教授・博士(学術)

〔博士後期課程〕 ●人の運動機能評価の研究 ●身体動作のメカニズム研究 ●健康遊具の開発と自立支援機器評価法の研究 ●運動パフォーマンス向上メカニズムの研究 ●把握動作の感性評価と製品設計に関する研究

ロボット・ビジョン研究室

吉野和芳教授・博士(工学)

〔博士後期課程〕 ●ロボットの視覚機能のための画像処理技術に関する研究 ●障がい者・高齢者支援システムに関する研究 ●非接触検査システムのための画像処理技術に関する研究

運動生理・健康科学研究室

渡邊紳一教授・博士(学術)

〔博士後期課程〕 ●心肺予備能の計測および評価の手法に関する研究 ●テーピングが身体諸機能におよぼす影響 ●ドーピング防止教育に関する調査研究 ●呼吸筋力と換気能力との関係

クリニカルイノベーションマネジメント(CIM)研究室

鈴木 聡教授・博士(医学)

〔博士後期課程〕 ●医療タスクにおける技能や認識の評価に関する研究 ●医療従事者の行動形成に関する人間工学的研究 ●医療安全に関する研究 ●医療組織のリソース・マネジメントに関する研究 ●人工臓器(生体機能代行)に関する研究

人間工学研究室

高尾秀伸教授・博士(人間科学)

〔博士後期課程〕 ●人間機能拡張のための人間工学 ●視覚障害者音響ナビゲーションインタフェースの開発 ●次世代車載情報機器のドライバディストラクション評価に関する研究 ●自転車の高効率化に関する研究 ●fNIRSを用いた複合現実環境下における脳機能特性の研究

情報システム電力変換工学研究室

河口進一教授・博士(工学)

〔博士後期課程〕 ●計算機システムにおける電源制御に関する研究

病態治療研究室

馬嶋正隆特任教授・医学博士

〔博士後期課程〕 ●病態時の血管新生を制御する生理活性脂質・ペプチドの役割解明 ●がん転移を制御する生体内因子の解析と治療応用 ●リンパ浮腫の病因解析と新規治療法の開発 ●リンパ管、リンパ組織の可塑性が関与する病態の解析と治療を目指した基盤研究 ●臓器障害と修復の分子機構の解析と治療のための基盤研究

医療支援ロボットシステム研究室

金 大永教授・博士(情報理工学)

〔博士後期課程〕 ●術者の適切な操作力を誘導するデバイスの開発 ●鉗子の安全な動作を実現するトロッカー型ロボット ●生体損傷の計測およびその定量的評価 ●鉗子操作トレーニングシステムの開発及びその学習効果の評価 ●穿刺トレーニングシステムの開発及びその学習効果の評価

ロボット・インターフェース研究室

河原崎徳之教授・博士(工学)

〔博士後期課程〕 ●画像と音声を用いたヒューマンマシンインタフェースの研究 ●生活支援ロボットに関する研究 ●ジェスチャ認識によるロボットアームの制御 ●移動型コミュニケーションロボットの開発 ●ユニバーサルデザインを考慮した家電用インタフェースの研究 ●人追従型買い物支援ロボットカートに関する研究 ●非接触型インタフェースによる電動車いすの制御

ロボット・メカトロニクス システム専攻



■ 博士前期課程

【教育目的】

ロボット・メカトロニクスシステム専攻は、ロボット・メカトロニクス並びに医工学・福祉工学に関する高度な専門知識や技術を修得しようとする学生及び社会人を対象として、先端的産業分野において新たな技術開発ができるだけでなく、生活を豊かにし、高齢者や障がい者が社会参加できるための機器（介護・介助ロボット・福祉機器、健康維持・増進機器など）を開発するための高い能力と倫理観を有する人材の養成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- ①ロボット・メカトロニクス並びに医工学・福祉工学における開発者、研究者の職業を担うために必要なロボット、メカトロニクス、医工学、福祉工学分野の基礎的知識・技術や応用的知識・技術を身につけ、それらを体系的に理解しており、かつそれらの知識や技術を問題解決のため活用することができる。
- ②先進的技術分野のみでなく、人間科学や福祉分野等の学際的な分野にも対応できる幅広い視野を持ち、俯瞰的視点から技術課題を発見したり、社会的ニーズを掘り起こしたりすることができる。
- ③介護・介助ロボット・福祉機器、健康維持・増進機器等における技術課題を設定し解決法を提案して研究を企画でき、企画した研究を実践することができる。
- ④ロボット・メカトロニクス並びに医工学・福祉工学分野の専門知識に基づいて、自らの思考や立案の妥当性を理論的に説明し、議論することができる。また、自ら遂行した研究、開発、調査等の成果を英文も含め、文章としてまとめることができる。
- ⑤研究者、技術者として社会の健全な発展に貢献するため高い倫理観に基づいた判断ができる。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- ①ロボット・メカトロニクス並びに医工学・福祉工学における基礎的知識・技術を習得し、体系的な理解により、技術者・研究者として問題発見及び解決する能力を身につけるため、各種講義や演習を中心とする専門基礎科目群を設置する。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。

- ②幅広い視野と総合的な判断力を身につけ、社会的ニーズを的確に捉え、人に優しく安全性の高い器具、機器、施設の開発を行う能力を身につけるため、各種講義や演習を中心とする専門応用科目群を設置する。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。

- ③専門分野にとらわれない幅広い視野や俯瞰力を身に付けるため、講義による研究科の共通基礎科目群を設置する。

学修成果の評価方法

本科目群の学修成果は試験、レポート、演習結果にて評価する。

- ④課題解決能力、実践的能力、プロジェクト企画力、チームワーク力等の社会人等を育成するため、PBL教育を中心とする総合プロジェクト、研究・技術開発リテラシーや長期インターンシップを設置する。

学修成果の評価方法

本科目の学修成果は、レポートおよび発表会での発表内容、質疑に対する応答内容などから総合的に評価する。

- ⑤課題解決能力、研究企画力、実践能力、自らの思考や立案を理論的に説明して議論できる能力や研究、開発、調査等の成果をまとめ口頭や文章で表現する能力などのコミュニケーション能力を育成するため、企画立案から成果発表までの一連の研究活動を実行する特別研究を設置する。また、高い倫理観を涵養するために特別研究においては倫理教育も行う。

学修成果の評価方法

特別研究の学修成果は、発表会、論文、学会などの外部発表などをもとに複数の所定の観点から総合的に評価する。

指導教員の研究室紹介(主な研究指導内容)

2025年4月現在

知能機械研究室

兵頭和人教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 人と協調できるロボットの開発
- 腿駆動式ロボット機構の研究
- 身体動作解析システムの研究

ロボット・インターフェース研究室

河原崎徳之教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 画像と音声を用いたヒューマンマシンインタフェースの研究
- 生活支援ロボットに関する研究
- ジェスチャ認識によるロボットアームの制御
- 移動型コミュニケーションロボットの開発
- ユニバーサルデザインを考慮した家電用インタフェースの研究
- 人追従型買い物支援ロボットカートに関する研究
- 非接触型インタフェースによる電動車いすの制御

運動機能評価研究室

高橋勝美教授・博士(学術)

〔博士前期課程〕

- 人の運動機能評価の研究
- 身体動作のメカニズム研究
- 健康遊具の開発と自立支援機器評価法の研究
- 運動パフォーマンス向上メカニズムの研究
- 把握動作の感性評価と製品設計に関する研究

人間支援システム研究室

高橋良彦教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 農業用ロボット(LED栽培システム等)の開発研究
- 人間の身体的・心理的反応を考慮したロボット制御システムの開発研究
- インテリジェント制御システムの開発研究

ライフサポート工学研究室

松田康広教授・博士(環境学)

〔博士前期課程〕

- コミュニケーション支援システムの開発
- 皮膚接触による感情伝達に関する研究
- 指点字の打点指示・認識システムの開発

クリニカルイノベーションマネジメント(CIM)研究室

鈴木 聡教授・博士(医学)

〔博士前期課程〕

- 医療タスクにおける技能や認識の評価に関する研究
- 医療従事者の行動形成に関する人間工学的研究
- 医療安全に関する研究
- 医療組織のリソース・マネジメントに関する研究
- 人工臓器(生体機能代行)に関する研究

ロボット・ビジョン研究室

吉野和芳教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- ロボットの視覚機能のための画像処理技法に関する研究
- 障がい者・高齢者支援システムに関する研究
- 非接触検査システムのための画像処理技法に関する研究

運動生理・健康科学研究室

渡邊紳一教授・博士(学術)

〔博士前期課程〕

- 心肺予備能の計測および評価の手法に関する研究
- テーピングが身体諸機能におよぼす影響
- ドーピング防止教育に関する調査研究
- 呼吸筋力と換気能力との関係

人間工学研究室

高尾秀伸教授・博士(人間科学)

〔博士前期課程〕

- 人間機能拡張のための人間工学
- 視覚障害者音響ナビゲーションインタフェースの開発
- 次世代車載情報機器のドライバディストラクション評価に関する研究
- 自転車の高効率化に関する研究
- fNIRSを用いた複合現実環境下における脳機能特性の研究

【アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）】

- ①研究者、高度技術者に必要な専門知識や技能を習得したり理論を理解するために必要な力学・電気電子・制御工学・情報処理・福祉工学・人間科学分野における基礎的な知識と能力を有する人。さらに、これらの知識や能力を活用できる思考力を有する人。
- ②国際交流に対応できるコミュニケーション能力の基礎を有する人。
- ③論理的思考ができ、創造的な発明、問題の発見、問題解決に喜びを見いだせることができ、また技術を通して社会に貢献する意欲をもち、これらを含めて明確な入学の目的をもつ人。



博士前期課程

2025年度入学生用カリキュラム

分類	授業科目名	必 選	年次および単位数				備考	
			1 年 次		2 年 次			合 計
			前	後	前	後		
専門基礎 科目	メカトロニクス特論	選択	2				2	
	知的情報システム	選択	2				2	
	制御工学特論	選択	2				2	
	認知行動科学特論	選択	2				2	
	健康科学特論	選択		2			2	
	医療機器構成要素論	選択		2			2	
	生体機能代行装置学特論	選択		2			2	
	治療支援ロボットシステム論	選択		2			2	
	生理学特論	選択		2			2	
	インタラクティブシステム設計特論	選択	2				2	偶数年開講
専門応用 科目	画像映像解析特論	選択		2			2	奇数年開講
	応用音響工学特論	選択	2				2	偶数年開講
	ヒューマン・マシンインタフェース	必修	2				2	
	インタラクティブコミュニケーション	選択	2				2	
	生体計測工学	選択		2			2	
	知能機械設計工学	選択		2			2	
	インテリジェントセンシング	選択		2			2	
	健康開発システム	選択		2			2	
	臨床人間工学特論	選択		2			2	
	人間機械共生工学	選択	2				2	
PBL系科目	デジタルシステム	選択		2			2	
	医療データサイエンス	選択	2				2	
	総合プロジェクト	必修	2				2	
	研究・技術開発リテラシー	必修	1	1			2	
共通	特別研究Ⅰ	選択必修			4		4	
	特別研究Ⅱ	必修				4	4	
	長期インターンシップ	選択必修			4		4	

2025年4月現在

情報システム電力変換工学研究室

河口進一教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 計算機システムにおける電源制御に関する研究

フルードパワー・災害救助ロボット研究室

吉満俊拓教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 防災機器の開発
- レスキュー用ロボットの開発
- 空気圧を用いた福祉機器の研究
- 流体素子の研究

病態治療研究室

馬嶋正隆特任教授・医学博士

〔博士前期課程〕

- 病態時の血管新生を制御する生理活性脂質・ペプチドの役割解明
- がん転移を制御する生体内因子の解析と治療応用
- リンパ浮腫の病因解析と新規治療法の開発
- リンパ管、リンパ組織の可塑性が関与する病態の解析と治療を目指した基盤研究
- 臓器障害と修復の分子機構の解析と治療のための基盤研究

医療支援ロボットシステム研究室

金 大永教授・博士(情報理工学)

〔博士前期課程〕

- 術者の適切な操作力を誘導するデバイスの開発
- 鉗子の安全な動作を実現するトロッカー型ロボット
- 生体損傷の計測およびその定量的評価
- 鉗子操作トレーニングシステムの開発及びその学習効果の評価
- 穿刺トレーニングシステムの開発及びその学習効果の評価

ユニバーサルロボット研究室

吉留忠史准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 人と共存するコミュニケーションロボットの開発
- 屋外で活動する車輪型移動ロボットの開発
- 人に対して誘導・追従・並走を行うロボットの開発
- 空間知能化によるロボットの活動しやすい環境構築
- 無伴奏歌唱に対して手拍子を打つロボットの開発

人間センシング研究室

大瀧保明准教授・博士(情報科学)

〔博士前期課程〕

- 身体動作の運動力学、センシング、モデル化
- 生体電気信号の計測と信号処理、特徴抽出

人間機械共生研究室

三枝 亮准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- ヘルスケアロボット（見守り・生理計測・音声会話）
- 身体拡張インターフェース（手指・口腔・歩行計測）
- 感覚運動・知覚情報システム（食事認識・認知記憶）
- 機械学習・認知発達ロボット（運動認識・道具操作）
- 屋内・屋外作業ロボット（製造設備機器・環境管理）

臨床工学医療情報研究室

川崎路浩准教授・博士(工学)

〔博士前期課程〕

- 医療情報を利用した機械学習モデルの構築に関する研究
- 災害時における医療情報共有方法の検討とWEBサービスアプリの開発

生体情報研究室

西村宗修准教授・博士(医療科学)

〔博士前期課程〕

- 体位変換時の循環動態と血圧調節に関する研究
- ストレスが血圧調節に及ぼす影響に関する研究

修士論文 一覧

【2024年度修了生】

機械工学専攻 (1名)

Department of Mechanical Engineering

- ロボット機構の運動学特性の改変を目的とした非円形歯車の設計手法に関する研究

電気電子工学専攻 (24名)

Department of Electrical and Electronic Engineering

- 分光分布の異なる光色が仮眠時の脳波に及ぼす影響
- 産業用自律走行ロボット学習教材の試作
- 物体検出と骨格認証を用いた調理時の過剰除去率低減手法の研究
- ipRGCがコントラスト感度へ及ぼす影響に関する基礎研究
- 蛍光体の含有量を変化させたLED照明の微細藻類育成効果の検討
- 超解像処理による乳がん石灰化影の良悪性鑑別CADの性能向上
- 準天頂衛星みちびきを用いた大規模災害時における広域被災者情報収集システムの研究
- セミパブリック空間でのオンライン接客のための姿勢情報による雰囲気への推定
- TEモード動作導波路形光アイソレータのためのディスク-リング結合型共振器の研究
- 身体拡張時の日常会話におけるコミュニケーション行動の変容
- 縦型Fin構造を有する自己バイアスチャネルダイオードの電気的特性の検討
- 単結晶太陽電池モジュールのホットスポット発熱電力の低減に関する研究
- 味覚から連想した光色に誘発されるクロスモーダル知覚が味覚閾値へ及ぼす影響
- 直流電圧成分を重畳させたナノ秒パルス放電空間における浮遊粒子の軌道に関する研究
- 児童および生徒にプログラミング学習指導ができるための教員向け研修教材の実践的検討
- 水電極を用いた電気集じん装置における浮遊ウイルスの捕集
- LEDドライバー ICを用いた大型高階調サッカー型ラインディスプレイの開発
- 太陽光発電駆動型省電力無線センサネットワークを用いた土砂災害遠隔監視システムの長期稼働実現の研究
- Nb2O5 装荷 Si 導波路を用いたマッハツェンダー干渉計型光アイソレータの基礎研究
- 電気集じん装置用ブラシ電極の耐久性と性能向上に関する研究
- 細胞スクリーニング技能養成のためのCAD教材生成システムの開発
- パルス点灯方式を用いた近紫外線LEDの除菌効果の検証
- Nb2O5 水平スロット導波路DBR共振器を用いたセンサデバイスの研究
- テーパー構造マルチモード干渉計カプラを用いた液晶装荷型光スイッチの研究

応用化学・バイオサイエンス専攻 (13名)

Department of Applied Chemistry and Bioscience

- 2種の蛍光タンパク質を用いた染色体の長時間追跡法の開発
- 浮上型チキソトロピーゲルによる有害金属の回収
- Anagryne analogueの合成研究
- シャペロニンGroEL/GroES複合体を用いたDDSキャリアの開発
- 海洋性鉄酸化細菌を用いた海水浮遊選鉱法の利用
- ケミカルループ燃焼による有機廃液処理の小型検証機での評価
- 温度応答性医薬用ポリロタキサンゲルの合成と評価
- 各種GroESのGroELへの結合強度と基質選択性の差異の検討
- アデニル化反応触媒可能なペプチド配列の探索に向けたスクリーニング系の構築
- 活性炭を用いた効率的な水中の環境DNA回収方法の開発
- IV型線毛複合体の内膜局在タンパク質の相互作用解析
- 荊芥抽出物中の*Saccharomyces cerevisiae*に対する小胞輸送阻害物質の特定と特性評価
- 直線状の累積アズレン化合物の合成

機械システム工学専攻 (8名)

Department of Mechanical Systems Engineering

- 車両運動特性と生体反応の比較評価検討
- 下肢筋電位を用いたブレーキ操作早期検出
- 歩行者と協調的な自律移動モビリティ 一 個別情報提示と状態適応型経路生成
- 小型モビリティを用いた生活道路自動運転 一 車両運動と曲率を考慮した経路計画
- 定置カメラを用いた複数モビリティの自動走行システム
- 車両の電動化に伴う諸元変化が操舵特性評価に及ぼす影響
- ドライビングシミュレータを用いた車体姿勢及びその制御の評価に関する研究
- デジタルツインドライバを用いた操舵特性評価手法の高精度化に関する研究

情報工学専攻 (15名)

Department of Information and Computer Sciences

- 情報指向型マルチホップ無線ネットワークにおける部分コンテンツキャッシュを利用したコンテンツ受信方式
- 快適な音環境実現のための頭部伝達関数の計測と空間音響評価
- 教員の負担削減を目的としたスマートフォンによる学内における学生の行動トラッキング手法
- 加速度情報に基づく手話文からの単語抽出と単語認識手法の提案と評価
- 画像選択と視線軌跡の特徴量を組み合わせた個人認証システムに関する研究
- 低照度環境における高コントラスト画像の視認性向上アルゴリズムの研究
- ピアノにおける弦の空間運動と2次系列の統合モデルに関する検討
- 振動体とピックアップを有する電気鍵盤楽器の物理モデル音源に関する検討
- AIによる万引き予兆行動の判別と人がもつイメージに関する研究
- キーボード操作に関する継続的マルチモーダル認証手法の研究
- セルフオーダーのための空書認識における文字区切り手法に関する研究
- 多様なシーンにおけるYOLOを用いた自動車のナンバープレート認識に関する研究
- 定型コーディングフォームを用いたプログラミング学習支援システムの開発と評価
- LPWAを活用したソーラーカーレース用テレメトリシステムの実装
- 保育VRシステムへの基礎研究

ロボット・メカトロニクスシステム専攻 (4名)

Department of Robotics and Mechatronics Systems

- 脊椎型駆動モジュラーロボットの研究開発
- 音声対話型食行動認識システムの研究開発
- 大脳皮質電気刺激自動制御システムの開発
- 子が親へ学んだことを教えることによる知識定着率に関する研究

大学院修了後の進路

想像を上回る急激な技術革新や社会経済の進展に伴い、高度な専門知識・能力を持つ人材が求められています。高度な専門知識と応用能力を身に着けた本学大学院修了者は、研究開発の第一線で活躍し、その実績が各分野から高く評価されています。

就職

機械工学専攻

- いすゞ自動車(株) ● (株)ティラド ● (株)日立産機システム ● シーメンス(株) ● シャープエネルギーソリューション(株) ● 三菱電機(株)
- 松田産業(株) ● (株)加藤製作所 ● 日立Astemo(株) ● (株)ダンレイ ● ヤマハ発動機(株)

電気電子工学専攻

- 東京電力ホールディングス(株) ● (株)荏原製作所 ● 日本ケミコン(株) ● メタウォーター(株) ● 愛三工業(株) ● 日本電波工業(株)
- シャープ(株) ● (株)昭和真空 ● (株)ソノコム ● (株)日立国際電気 ● (株)クレステック ● 三菱UFJトラストシステム(株) ● (株)計測技術研究所
- 東京電力ホールディングス(株) ● 日本ケミコン(株) ● ニチコン(株) ● 日本航空電子工業(株) ● 協米産業(株) ● 菊水ホールディングス(株)
- 前田建設工業(株) ● 水ing(株) ● (株)アイオス ● (株)朋栄 ● NTT東日本グループ会社 ● 日本通信エレクトロニクス(株)
- TOPPANホールディングス(株) ● 本田技研工業(株) ● スタンレー電気(株) ● (株)オカムラ ● 芝浦機械(株) ● (株)東光高岳 ● (株)DTS
- 日本ケミコン(株) ● (株)小野測器 ● (株)昭和真空 ● 日立Astemo(株) ● 日本無線(株) ● 東芝ライテック(株) ● キヤノンアネルバ(株)
- アイシン軽金属(株) ● (株)日立プラントメカニクス ● 横河マニファクチャリング(株) ● アピックヤマダ(株) ● CRESS TECH(株)
- 山陽精工(株) ● 神奈川県教育委員会 ● 山梨県教育委員会

応用化学・バイオサイエンス専攻

- トヨタ紡織(株) ● 前澤工業(株) ● (株)アイビー化粧品 ● 川口化学工業(株) ● (株)ニックス ● 日本電波工業(株) ● (株)ニッピ ● (株)合同資源
- (株)吉野工業所 ● 関西電子工業(株) ● エビナ電化工業(株) ● (株)ヨロズ ● 日本ケミコン(株) ● (株)ソノコム ● ニデックインスツルメンツ(株)
- 興国インテック(株) ● 日本化工塗料(株) ● 沖エンジニアリング(株) ● (株)共栄社 ● (株)パーマケム・アジア ● タマ生化学(株)
- (株)太平洋コンサルタント ● 一般財団法人千葉県薬剤師会検査センター ● 国立大学法人東京科学大学 ● 神奈川県教育委員会

機械システム工学専攻

- 本田技研工業(株) ● (株)ジェイテクト ● 日立Astemo(株) ● ポッシュ(株) ● 日産モーターススポーツ&カスタマイズ(株) ● エヌ・イー・エス(株)
- マツダ(株) ● いすゞ自動車(株) ● UDトラックス(株) ● コンチネンタル・オートモーティブ(株) ● 三和シャッター工業(株) ● トヨタ自動車(株)
- 日産自動車(株) ● (株)アイシン ● プレス工業(株) ● (株)ユタカ技研

情報工学専攻

- 富士ソフト(株) ● (株)トレジャー・ファクトリー ● 三菱電機ソフトウェア(株) ● CTCテクノロジー(株) ● (株)ソフトス ● (株)アコー
- (株)ソフトム ● (株)ゼネット ● (株)ステップ ● (株)シグマイン ● (株)スカイウィル ● アルテリア・ネットワークス(株) ● シャープ(株)
- (株)東計電算 ● エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株) ● 日本コムシス(株) ● ジョンソンコントロールズ(株) ● JPシステム開発(株)
- 東京海上日動システムズ(株) ● (株)ダイテック ● サクラシステムサービス(株) ● 東邦電子(株) ● 日本NCR(株) ● (株)三恵クリエス
- (株)エス・イー・ティー ● (株)ビヨンド ● NTTセキュリティ・ジャパン(株) ● 楽天グループ(株) ● TDCソフト(株) ● (株)オブティム
- サンワコムシスエンジニアリング(株) ● コムシス情報システム(株) ● (株)アトラスシー ● (株)メディサイエンスプランニング
- 日本アイ・ビー・エムシステムズ・エンジニアリング(株) ● ソリューション・ラボ・ジャパン(株) ● (株)ソフトム、アイレット(株)
- 株式会社アイ・オー

ロボット・メカトロニクスシステム専攻

- (株)JVCケンウッド ● ソニー(株) ● (株)ツガワ ● SMC(株) ● (株)日本設計工業 ● スズキ(株) ● アマノ(株)
- Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(株)

大学院教育と学部教育の連携(単位認定)

本学の「大学院教育と学部教育の連携」制度に基づき、学部4年次において大学院の科目を履修・修得した場合は、大学院博士前期課程へ入学後に、この旨を申請すれば大学院修了所要単位として認定します。

連携大学院

連携大学院とは、学外の高度な研究水準をもつ国立試験研究所や民間などの研究所の施設・設備や人的資源を教育・研究に活用し、若い研究者を育成していく制度です。研究所の研究者が大学院の教授に併任あるいは客員教授に就任して、研究所内で大学院生を学位取得まで指導します。

連携大学院は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（当時の5研究所：機械技術研究所、電子技術総合研究所、物質工学

工業技術研究所、資源環境技術総合研究所、生命工学工業技術研究所）と、平成12年4月1日から教育研究協力に関する協定を締結し、発足しました。現在、国立研究開発法人産業技術総合研究所と連携大学院制度を締結している大学は、国立では東北大学、筑波大学、千葉大学、東京科学大学など、私立では東京理科大学、千葉工業大学、金沢工業大学、東京電機大学などです。

神奈川県内大学院単位互換協定

大学院における教育・研究のより一層の充実をはかるため、本学と下記の大学の大学院とが平成13年1月に学術交流に関する協定を締結しました。その内容は、本学大学院生が各大学院の授業科目を履修することが可能で、修得した授業科目の単位

を10単位を超えない範囲で本学大学院の修了の要件となる単位として認めます。更に各大学院に所属する教員の研究指導を受けることや共同研究に参加することもできます。

- 青山学院大学 ● 麻布大学 ● 神奈川大学 ● 神奈川歯科大学 ● 鎌倉女子大学 ● 関東学院大学 ● 北里大学
- 相模女子大学 ● 松蔭大学 ● 湘南工科大学 ● 昭和医科大学 ● 情報セキュリティ大学院大学 ● 女子美術大学
- 聖マリアンナ医科大学 ● 専修大学 ● 総合研究大学院大学 ● 田園調布学園大学 ● 鶴見大学 ● 桐蔭横浜大学
- 東海大学 ● 東京科学大学 ● 東京工芸大学 ● 東京都市大学 ● 日本大学 ● フェリス女学院大学 ● 文教大学
- 明治大学 ● 横浜国立大学 ● 横浜市立大学 ● 横浜創英大学

海外交流 学術教育交流に関する海外協定大学一覧 (2025 年4月現在)

	協定日	国 名	協定大学名		協定日	国 名	協定大学名
1	平成8年3月18日	英 国	リーズ大学工学部	20	平成27年3月20日	中 国	北京郵電大学
2	平成15年11月19日	米 国	サウスシアトル カレッジ	21	平成27年5月8日	インドネシア	バタム国際大学
3	平成16年7月19日	モザンビーク共和国	インスティテューテ スペリオーレ デ サイエンスエテクノロジー大学	22	平成27年12月14日	ベトナム	ニャチャン大学
4		コンゴ民主共和国	アンスティチュ スペリウールドウ コメルス ドウ キンジャサ大学	23	平成27年12月16日	ベトナム	ホーチミン市交通大学
5	平成16年7月28日	コンゴ民主共和国	ユニヴェルシテ ドウキンジャサ大学	24	平成27年12月21日	クウェート	クウェート科学技術大学
6		コンゴ民主共和国	アンスティチュ スペリウールドウテクニク アプリケ大学	25	平成28年1月4日	フィリピン	聖母ファティマ大学
7	平成16年10月19日	中 国	揚州大学	26	平成28年2月2日	台 湾	嶺東科技大学
8	平成19年1月10日	英 国	オックスフォードブルックス大学	27	平成28年7月19日	マレーシア	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学(UTAR)
9	平成20年6月19日	米 国	デジベン工科大学	28	平成28年10月20日	タイ王国	キングモンクット工科大学トンブリ校
10	平成21年3月9日	台 湾	明道大学	29	平成29年2月1日	インドネシア	マナド州立工科大学
11	平成22年11月11日	米 国	レイクワシントン工科大学	30	平成29年2月6日	インドネシア	スラバヤ電子工科大学
12	平成23年3月22日	フランス	フランス国立工芸大学	31	平成29年2月17日	タイ王国	タイキリスト教大学
13	平成24年1月27日	タイ王国	チュラロンコーン大学	32	平成29年11月23日	インド	ペローラ工科大学
14	平成24年3月26日	スウェーデン	ウプサラ大学 (旧ゴットランド大学)	33	平成31年1月2日	インドネシア	ウンジャニ大学
15	平成24年7月20日	ドイツ	ミュンヘン応用科学大学	34	令和3年9月17日	ベトナム	タイビン医科薬科大学
16	平成26年10月25日	タイ王国	サイアム大学	35	令和3年12月21日	タイ王国	バンコク大学
17	平成27年2月9日	インドネシア	ゴロンタロ州立大学	36	令和4年3月15日	タイ王国	タンマサート大学シリトーン校
18	平成27年2月22日	バングラデシュ	ダフォード国際大学	37	令和4年4月31日	インドネシア	スルタン アグン イスラム大学
19	平成27年3月12日	韓 国	東西大学	38	令和6年9月27日	タイ王国	泰日工科大学

教育交流に関する各種協定 (2025 年4月現在)

	協定日	協定先
1	平成11年12月10日	放送大学と単位互換協定を締結
2	平成12年4月1日	通産省(現独立行政法人)工業技術院の5研究所(物質工学工業技術研究所、機械技術研究所、電子技術総合研究所、生命工学工業技術研究所および資源環境技術総合研究所)と教育研究協力協定を締結し連携大学院を設置
3	平成13年1月10日	神奈川県内大学院学術交流協定を締結
4	平成17年3月17日	神奈川県立総合教育センターと教育連携に関する協定を締結
5	平成20年6月20日	厚木市と神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学との連携、協働に関する包括協定を締結
6	平成30年9月28日	神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学との連携・協力に関する包括協定書
7	平成30年9月28日	厚木商工会議所と神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学との連携・協力及び協働に関する包括協定書

2026年度大学院募集概要

募集内容の詳細は必ず「募集要項」で確認してください。本冊子と募集要項の記載内容に相違があった場合には「募集要項」記載のとおりとします。

募集専攻・募集人員

博士前期課程	機械工学専攻(28名)、電気電子工学専攻(16名)、応用化学・バイオサイエンス専攻(16名) 情報工学専攻(18名)、ロボット・メカトロニクスシステム専攻(6名)
博士後期課程	機械工学専攻(4名)、電気電子工学専攻(2名)、応用化学・バイオサイエンス専攻(2名) 情報工学専攻(2名)

入試日程 (一般入試、社会人特別推薦入試)

【博士前期課程】

日 程	専 攻	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続き締切日	延納手続き締切日
A日程	機械工学専攻 電気電子工学専攻 応用化学・バイオサイエンス専攻 情報工学専攻	8月25日(月)～ 9月1日(月) 〈消印有効〉 持参:9月2日(火) 17時まで	9月9日(火)	9月13日(土)	9月25日(木) 〈消印有効〉 持参:9月26日(金) 17時まで	12月18日(木) 〈消印有効〉 持参:12月19日(金) 17時まで
B日程	ロボット・メカトロニクスシステム 専攻	2月9日(月)～ 2月16日(月) 〈消印有効〉 持参:2月17日(火) 17時まで	2月24日(火)	3月3日(火)	3月13日(金) 〈消印有効〉 持参:3月16日(月) 17時まで	延納制度の適用は ございません

※本学学生を対象とする「学内推薦入試」の日程は募集要項で確認してください。

【博士後期課程】

日 程	専 攻	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続き締切日	延納手続き締切日
A日程	機械工学専攻 電気電子工学専攻 応用化学・バイオサイエンス専攻 情報工学専攻	8月25日(月)～ 9月1日(月) 〈消印有効〉 持参:9月2日(火) 17時まで	9月9日(火)	9月13日(土)	9月25日(木) 〈消印有効〉 持参:9月26日(金) 17時まで	12月18日(木) 〈消印有効〉 持参:12月19日(金) 17時まで
B日程	ロボット・メカトロニクスシステム 専攻	2月9日(月)～ 2月16日(月) 〈消印有効〉 持参:2月17日(火) 17時まで	2月24日(火)	3月3日(火)	3月13日(金) 〈消印有効〉 持参:3月16日(月) 17時まで	延納制度の適用は ございません

選抜方法

博士前期課程	一般入試	英語 ^{*1} (筆記試験またはTOEIC)、専門科目試験 ^{*2} (筆記試験)、面接(卒業研究に関する口頭試問含む)、出身大学の調査書(成績証明書)を総合して選考します。
	社会人特別推薦入試	書類(研究業績等)および面接を総合して選考します。

※1. 英語の筆記試験またはTOEICは専攻により異なります。詳しくは募集要項をご参照ください。

※2. 専門科目試験(筆記試験)に代えて実績評価試験(プレゼンテーション方式)の入試を行う専攻があります。詳しくは募集要項をご参照ください。

博士後期課程	一般入試	英語 ^{*3} (筆記試験またはTOEIC)、面接(修士論文の試問および専門に関する口頭試問含む)を総合して選考します。(専門に関する筆記試験を行う場合もあり)
	社会人特別推薦入試	書類(研究業績等)および面接を総合して選考します。

※3. 英語の筆記試験またはTOEICは専攻により異なります。詳しくは募集要項をご参照ください。

試験会場

神奈川工科大学(〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030) 大学までのアクセスは本学ホームページをご参照ください。

※集合教室(試験室)は受験票でご案内します。

2025年度 大学院博士前期課程入試結果

専攻	S日程		A日程				B日程				日程合計			
	博士前期課程		博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程		博士後期課程	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
機械工学専攻	7	7	0	0	0	0	3	2	0	0	10	9	0	0
電気電子工学専攻	11	11	1	0	0	0	4	4	0	0	16	15	0	0
応用化学・バイオサイエンス専攻	7	7	4	3	0	0	6	6	0	0	17	16	0	0
情報工学専攻	6	6	0	0	0	0	12	12	1	1	18	18	1	1
ロボット・メカトロニクスシステム専攻	3	3	1	1	0	0	1	1	0	0	5	5	0	0
合 計	34	34	6	4	0	0	26	25	1	1	66	63	1	1

2026年度 学生納入金(博士前期課程・博士後期課程)

※本書において学生納入金(学納金)とは入学金、授業料、大学委託徴収金の合計です。

			博士前期課程		博士後期課程		
			1年次	2年次	1年次	2年次	3年次
入学金			200,000	0	200,000	0	0
授業料(1年分)※1			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大学委託 徴収金	後援会	入会金	3,000	0	3,000	0	0
		年会費	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	同窓会入会金※2		20,000	0	20,000	0	0
合 計			1,238,000	1,015,000	1,238,000	1,015,000	1,015,000

※1 授業料 1,000,000円は前期と後期の2回に分けて納入することも可能です。

※2 幾徳学園同窓会に既に入会されている方は再度入会金を納入する必要はございません。

注1) 次の①、②に該当する方は入学金および後援会入会金の納入が免除されます。

① 本学大学院博士前期課程合格者で本学学部を2026年3月に卒業する者。

② 本学大学院博士後期課程合格者で本学大学院博士前期課程を2026年3月に修了する者。

注2) 神奈川工科大学では、学債や寄付金を願うことはありません。

大学院の各種制度

大学院の経済的支援

1. 日本学生支援機構奨学金(貸与奨学金)

日本学生支援機構の奨学金の貸与は、日本学生支援機構法施行令及び日本学生支援機構の諸規程等に定める規程に基づいて行われます。学業成績が一定基準以上の学生で、経済的理由により修学困難な学生に対して学資を貸与しています。なお、この奨学金は貸与の為、貸与終了後は返還の義務があります。なお、貸与奨学金には、第一種(無利子)と第二種(有利子)の種類があり、毎年4月に募集を行います。詳しくは本学学生課(TEL 046-241-9394)までお問合せください。

奨学金の種類	採用対象者	貸与額(月額)
第一種奨学金 (無利子)	大学院博士前期課程	50,000円、88,000円から選択 授業料後払い制度 授業料支援金+生活費支援金(0円、20,000円、40,000円から選択)
	大学院博士後期課程	80,000円、122,000円から選択
第二種奨学金 (有利子)	大学院	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

2. 神奈川工科大学内部進学大学院給付奨学金

本学学部在籍者で神奈川工科大学大学院博士前期課程へ進学を希望する研究意欲旺盛で創造性に富んだ優秀な学生を経済的に支援するため「大学院生給付奨学金」の奨学生を募集します。なお、申し込みには期限があるので、本学学生課(TEL 046-241-9394)で確認してください。

3. 幾徳学園奨学金

本学が独自に行っている奨学金制度で、経済的理由により修学困難な学生に対して学資を貸与します。詳しくは本学学生課(TEL 046-241-9394)までお問合せください。

募集人数	1年次のみ20名
貸与金額	大学院博士前期課程：月額60,000円、大学院博士後期課程：月額80,000円
貸与期間	最短修業年限
推薦基準	学業基準、家計基準、人物基準
募集時期	4月(掲示等でお知らせします)
採用時期	6月
返 還	貸与終了の1年後から年賦または半年賦により10年間以内に返還(無利子)

4. 教育訓練給付制度

本学大学院博士前期課程の電気電子工学専攻および情報工学専攻の2専攻は、厚生労働大臣より教育訓練給付制度の講座指定を受けており、本制度の一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)が、厚生労働大臣の指定する教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費(授業料等)について所定の金額を公共職業安定所(ハローワーク)から給付を受けることができます。詳しくは本学入試課(TEL 046-291-3000)までお問合せください。

5. 国の教育ローン(日本政策金融公庫)

「国の教育ローン」は制度創設以来、40年以上の歴史を持つ公的な融資制度で、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために創設された制度です。本制度は民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫(日本公庫)が取り扱います。融資の条件等、詳しい内容については、教育ローンコールセンター(0570-008656または03-5321-8656)までお問合せください。

6. その他の奨学制度

地方公共団体・民間団体等の奨学金(2024年度実績)

奨学金の種類	採用対象者	奨学金(月額)
公益財団法人 中部奨学会	大学院生	60,000円(給付・貸与)
公益財団法人 中村積善会	大学院生	50,000円(給付)
公益信託 萬谷記念かながわ奨学基金	大学院生	博士前期800,000円・博士後期1,200,000円(年額・給付)
公益財団法人 戸部眞紀財団	大学院生	60,000円(給付)
公益財団法人 原・フルタイムシステム科学技術振興財団	大学院生	40,000円(給付)
一般財団法人 大森昌三記念財団	大学院生	30,000円(給付)
一般財団法人 TCS 奨学会	大学院生	50,000円(給付)
公益財団法人 村井順記念奨学財団	大学院1年生	30,000円(給付)
上越学生寮奨学生	大学院生	100,000円(無利子貸与)

2024年度奨学金利用実績

2024年度奨学金受給者数は次のとおりです。

課 程	在籍者数	本学独自の奨学金	日本学生支援機構奨学金
博 士 前 期 課 程	133	4	41
博 士 後 期 課 程	9	0	1

TA(ティーチング・アシスタント)制度

実験・実習・演習などを担当する教員の教育活動の補助業務に従事するTA制度を実施しています。

- ◆博士前期課程 1時間 1,200円 [1時限(100分) 2,040円]
- ◆博士後期課程 1時間 1,500円 [1時限(100分) 2,550円]

週8時間以内と規程で定められています。

最高、前期課程で、月額38,400円、後期課程で月額48,000円の収入を得ることができます。

キャンパス紹介

大学での研究活動をより充実したものとするために、神奈川工科大学のキャンパスには新たな施設が次々に誕生しています。

第四実験研究棟 [C6 号館]

地下1階・地上6階の建物で、館内には応用化学生物学科(応用バイオコース、生命科学コース)、管理栄養学科の研究室および基礎・教養教育センターのゼミ室などが置かれています。また1階には給食経営管理実習室、調理実習食品加工室、3階には臨床栄養実習室、4階にはバイオ実験室が設置されています。

第三実験研究棟 [C5 号館]

機械工学科(自動車システム工学コース)の研究室を中心とした地下1階、地上3階の建物です。3階には情報教育研究センターのPC教室。地下1階には工学教育研究推進機構の第2材料分析研究室があります。

図書館 [C1 号館]

館内には24万冊の蔵書があります。また約630席の閲覧席を完備しており、その中にはグループで使える個室や個人で集中するための防音型ブースそして自由にくつろぐための広々とした空間などさまざまな設備を有しています。さらに全フロアに高速大容量のWi-Fiを完備しており学習・研究・サークル活動等でアクティブに活用することができます。

情報学部棟 [K1 号館]

地上13階地下1階建ての館内には情報学部3学科の研究室の他、メディアホール、サウンドクリエイティブスタジオ、映像スタジオ、バーチャルリアリティ実験室などがあります。また、12階には展望レストランもあります。

学生サービス棟 [K2 号館]

地上4階建ての建物で、1階には教務課、学生課、キャリア就職課、健康管理室。2階には財務課、入試課などの事務機関が集約しています。3・4階は主に講義室やロビーが設置されています。

講義棟 [K3 号館]

地上6階建て地下1階建ての館内には講義室の他、講堂、学生食堂、ゼミ室、自主学習室、植物工場などが設置されています。また、大型バスも停車できる屋根付きのバス乗降所2レーンも完備しています。

KAIT HALL [A6 号館]

学生が楽しくくつろげる学生会館です。1階には旅行代理店、ラウンジ、談話ホール。2階には教育開発センター、基礎教育支援センター。3階は女子専用フロアとなっていてロッカー室、シャワー室、リフレッシュルームがあります。

看護医療棟 [K4 号館]

地上5階建ての館内には看護学科の教員室の他、基礎・精神看護学実習室、母性・小児看護学実習室などの実習室を備えています。また、臨床工学科の臨床工学実習室も設置されています。

幾徳会館 [A5 号館]

地上2階建ての建物で1・2が吹き抜ける開放的な建物です。館内にはお菓子から専門書まで扱う売店があり、さらにパソコンなどの機器を販売するPCステーションがあります。また、海外留学や留学生を担当する国際課も設置しています。

先進技術研究所 [D2 号館]

本学が取り組んでいる研究の中から特に有望な研究開発プロジェクトを3つ選定し、広く社会に貢献することを目指して実用化に向けた研究開発を集中的に展開している施設です。

第一体育館 [A2 号館]

地上2階建ての体育館で、1階部分は2階まで吹き抜けになっておりバレーボールなどの種目に使われています。2階部分にはトレーニング場もあります。

講義棟 [B5 号館]

地上4階建ての建物で階段状の講義室の他、臨床工学科の基礎工学実習室および基礎医学実習室を設置しています。

KAITアリーナ [A1 号館]

バレーボール、バスケットボール、バドミントンの公式戦対応コートその他、卓球、柔道、剣道、レスリング、ボクシングの対応スペースおよびトレーニングルームを備え、屋上にはフットサル場も設置している複合型体育館です。

工学教育研究棟 [D3 号館]

最先端の技術研究だけでなく、学外からの委託研究や共同研究なども行っています。

第一実験研究棟・第二実験研究棟 [C2 号館]

地上6階建ての建物で館内には機械工学科(機械工学コース)、電気電子情報工学科の研究室や実験室が入っています。また、屋上には研究で使用する通信衛星用パラボラアンテナや太陽光発電用パネルなども設置されています。

ロボット・プロジェクト棟 [E3 号館]

地上3階建ての建物にはプロジェクト室の他、実験研究室、工作室および展示室なども置かれています。

自動車工学棟 [E6 号館]

地上1階建ての建物にはドライビングシミュレータ一室、車両実験実習室、シャーシダイナモ室、溶接室、塗装・加工室、エンジンベンチ室などが置かれています。

電気・化学実験等 [E4 号館]

地上4階建ての建物には化学実験室、電気電子情報工学科実験室の他、回路デザイン教育センター、工学教育研究推進機構の有機化合物分析研究室なども置かれています。

KAIT TOWN [D5 号館]

地域の方々に開放し利用していただくことを目的とした施設です。1階には市民・学生コミュニティ室、市民・eスポーツホール。2階にはeスポーツセンター関連施設があります。

新実験実習棟 [E7 号館]

機械工学科(環境・エネルギー工学コース)の研究室の他、ゲッチング型(循環式)風洞実験研究施設、溶接技術関連の実習室などを設置し、バリアフリー機能も向上させた建物です。

応用化学生物学科棟 [E2 号館]

地上5階建ての建物には応用化学生物学科の研究室の他、次世代センシングシステム研究室、バイオメディカル研究センターなどが置かれています。

KAIT工房 [D1 号館]

学生の自主的なものづくり活動を支援する工房です。館内には3Dプリンターや工作機械をはじめ陶芸、鋳造加工など行う設備もあります。また、機器の使用方法などは常駐する技術支援スタッフがアドバイスし、学生はいつでも、安全・安心でのものづくりを楽しむことができます。

KAIT広場

約4,100㎡の敷地は緩やかな斜面を描き、その上に80m×50mの懸垂屋根が柱もなく、浮かぶような建物で、そこに居るだけでリラックスして自分の考えに潜り、空間がもたらす他にない感覚から新たな発想が刺激されるような独創的な空間を目指してつくられました。

情報システム学科棟 [E1 号館]

地上5階建ての建物には情報システム学科の研究室の他、ライフモデルルーム、ヒューマンパフォーマンスルームおよびワークショップなどが置かれ充実した実験・実習を行えます。

研究センター

■ グローバル学術連携センター

【センターの取り組み】

グローバル学術連携センターは新しい国際連携拠点として、海外研究機関等との国際共同研究や研究者間交流を推進するために、本学の研究所・センターの協力を得ながら、海外協定校を中心とした学術連携を統括します。国際共同研究や研究者間交流を活性化するためにオンラインによる講演会を実施し、さらに、国際共同研究の取り組みや成果について幅広く情報発信するために、定例国際シンポジウム等を開催します。

● 研究課題

国際共同研究の例：（日本、タイ、インドネシア三か国による連携研究）ドローン技術による気候変動に対応したスマート農業に関する研究／（日本、タイによる連携研究）生体情報分析に基づいた多言語対話型の健康管理システムの開発

■ 超広帯域ネットワーク研究センター

これまで、本学ではエッジコンピューティングやクラウドリソースを利用した8K非圧縮伝送・蓄積配信・処理の研究を推進してきた。このために、本学は100Gpsの速度で対外接続された実験ネットワークや相模原データセンターに400Gbpsの速度で接続されたエッジ装置を構築し、産学官で様々な実証実験を行っている。本センターでは、今後も産学官と連携して、超広帯域ネットワークを活用した伝送・処理技術および応用技術を社会実装し、産業界に貢献する事を目指す。

研究テーマは以下の通りである。

- (1) 超高速大容量通信処理技術の研究
- (2) 低遅延インラインコンピューティングの研究
- (3) 高速NWリソースモニタリングの研究
- (4) エッジコンピューティング活用サービス技術の研究

■ 先進自動車研究所 (Advanced Vehicle Research Institute; VRI)

豊かで快適なモビリティ社会の実現のため、自動車工学の基礎とCASE時代に代表される、知能化、電動化、IoT化、AIなどの先進技術を融合した研究テーマを推進している。自動運転や安全技術に関する大規模な産官学連携の国家プロジェクトや、自動車産業界との最先端技術の共同研究にも多く取組んでいる。更に、本学開催の「KAIT次世代自動車工学シンポジウム」は2018年に10回目を迎え、2019年にはKAIT_国際会議 ISAVT2019 (International Symposium on Advanced Vehicle Technology) を開催し好評を博した。又、2022年には格式のある15th International Symposium on Advanced Vehicle Control; AVEC' 22 30周年記念大会を本学で開催し、グローバルにも先進自動車研究に貢献している。今後も、先進的な自動車・モビリティの研究を通じて、地域コミュニティと自動車産業の発展に貢献する。

● 研究課題

内閣府主導の戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) 自動運転第2期採択研究開発テーマ：「仮想空間での自動走行評価環境整備手法の開発」(KAITがリーダー機関) / JST 戦略的イノベーション創出推進プログラム (S I N O B E) 採択研究開発テーマ：「高齢者の自立を支援し安全安心社会を実現する自律運転知能システム」(2016～2019年度) / リスク予測のためのドライビングコンテキストセンシングの研究 / 自動車の運動と制御に関する研究 / 自動運転・運転支援・先進安全制御システムに関する研究 / モビリティリサーチキャンパス構想 (AI, IoT, Smart Community) に関する研究 / 自動車の電動化に関する研究 / MBD (Model Based Development), Driving Simulator, Sensor Modeling 等 開発ツール環境、評価プラットフォームに関する研究 / 等、企業共同研究テーマ多数。

■ 情報未来研究センター

近年大学の研究に対し、「カーボンフリー」「少子高齢化」「産業競争力低下」といった社会の課題解決や、「住民QOL向上」「魅力ある街づくり」といった地域発展への寄与することがますます期待されるようになってきました。一方、大学の研究は研究室や所属学会の範疇で研究企画・実施・発表されることが多く、地域や社会と連携した活動につなぐににくい。この要因の一つとして、大学教員が地域や社会と接触し議論する機会や仕組みが不足し、相互理解が不十分であることが考えられます。同様の課題は、各教員と他学科の学生、各教員と他大学の研究者との間でも生じています。

そこで上記を背景に、大学教員が地域・社会をはじめとしてオープンに情報発信すると同時に、社会課題や地域発展を地域・社会とともに議論する機会を設けることで研究テーマを共創し、具体的連携研究を推進することを目的として、2024年度より表記センターを設置しました。特に地域や社会からの期待が大きく、本学の特色の一つである情報やモノづくりの分野を主体とした研究の連携に重点を置きます。

具体的には、地域・社会に開かれた研究会・展示会・セミナーの開催、連携研究の推進を行っていきます。

■ 環境科学技術研究所

本研究所は、本学の教育研究活動の向上を支援するとともに、環境問題の解決、エネルギー問題の解決のための技術を研究開発し、公的機関と連携することにより、科学技術の発展と地域の環境保全、新エネルギーの創成と有効利用へ貢献し、持続的な開発目標 (SDGs) および循環型社会 (Circular Economy) の達成のための諸問題の解決に取り組んでいます。

● 研究課題

環境汚染物質の生態影響評価とその場合分析方法の開発 / 種々の浄化方法による汚染物質処理後の安全性評価 / 環境汚染物質のキャラクタリゼーション / 難分解性有機化合物の新分解法の開発 / ケミカルループを主体とする環境調和型エネルギー利用方法の開発 / 廃棄物がないその場土壌処理システムの開発と評価 / 環境データの即時公開システムの構築 / 紫外線によるVOC等の有機化合物の完全酸化による処理法の開発 / 廃棄物とならない高度に吸着・脱着可能なバルク状 (塊状) の吸着材料

● 研究課題

太陽電池モジュールの新しい異常診断法に関する研究開発 / 寒冷環境下における太陽エネルギー利用の高効率化 / 太陽熱を有効に利用する熱サイホンの制御システムの開発 / 蓄エネルギーとしての水素を製造する小型装置の開発 / 情報技術と連携した人力発電システムの開発と学内運用 / 車載用PVに適する多系統MPPTの研究

■ ヒューマンメディア研究センター

「学術フロンティア推進事業」(文部科学省：2005～2009年度)でのプロジェクト研究の成果を基盤として、2011年度に設置された研究センターです。次世代のヒューマンメディアの基礎・応用研究をテーマとして、「立体表現メディア技術」「仮想空間入力システム技術」「感覚協調メディア技術」に関する研究・開発に取り組んでいます。

● 研究課題

仮想空間のヒューマンファクタ評価 / 3次元コンテンツ提示法の研究 / 3DCGコンテンツ作成法の研究 / 3次元インタラクションの基盤研究 / 仮想環境評価の脳機能面での基礎研究 / 動作認識のヒューマンメディアへの応用研究 / 生体計測のヒューマンメディアへの応用研究 / 訓練コンテンツ作成法の研究 / サウンド提示の感性への効果の研究 / サウンドの空間認知への影響評価 / ヒューマンメディアの管理栄養教育への応用 / 栄養教育へのヒューマンメディアの応用 / ヒューマンメディア利用時のストレス評価

■ 先端工学研究センター

先端工学研究センターは10の研究室からなり、先端的科学技術 研究の大型研究設備を活用して活発な研究を進めています。学術論文や国際会議、研究報告会等、数多くの研究成果を出しており、高い評価を得ています。これらの研究に関わる学部生や大学院生にとって、貴重な体験が得られる重要な学びの場となっています。また、大型研究設備は共同利用ができるので併せて活用して下さい。

■ スマートハウス研究センター

経済産業省の「スマートハウス国際標準化研究事業」(2011年度－2014年度)、「AIF国際規格化事業」(2017年度－2022年度)に採用され、スマートハウスの基盤技術であるHEMS、ECHONET Lite技術を核としたIoT基盤技術の研究開発及び国際標準化推進の活動に取り組んでいます。

● 研究課題

IoT基盤技術の研究／IoT応用サービス技術の研究／ECHONET Lite国際標準化に関する研究

■ スマートロボティクス研究開発センター

「スマートロボティクス研究開発センター」は、ロボットの「自律化」・「情報端末化」・「ネットワーク化」ための制御システムを核とした研究開発に取り組んでいます。

● 研究課題

居住空間で行動する歩行ロボット／店舗用サービスロボット／IoTデバイスを用いた環境情報収集／栽培管理システム／バス路線案内用システム(産学連携課題)

■ 新物性化合物合成研究所

新物性化合物合成研究所は、機能性を有した新規化合物を合成しており、その対象は有機・無機両方の化合物と幅広い化合物をターゲットとしています。さらに、本研究室で合成した化合物を他研究室に提供し、コラボしながら新たな性質・機能を見いだすことを主眼に活動しています。一方、これらの研究に携わる学部生や大学院生にとって、研究対象を分子レベルで洞察する能力を涵養する場を提供しています。

● 研究課題

生物活性化合物の合成および化合物ライブラリーの構築／生物を越える高機能性材料の開発／生物機能を発現する分子・超分子構造の探索／電子デバイスへの応用を志向した新セラミックス合成研究／新機能を有する金属ナノ粒子の開発

■ 先進eスポーツ研究センター

先進eスポーツ研究センターは2020年11月に本学で発足した「eスポーツプロジェクト」に併せて設立された研究センターです。NTT e-Sports、NTT東日本と結んだeスポーツに関わる産学連携協定を軸に、ICTやスポーツ情報科学の活用によりeスポーツの価値を確立するための研究に取り組んでいます。また、KAIT eスポーツクラブの支援を通じて、eスポーツ分野の新技術、新アプリの開発に学生も携わらせることで、新しいIT教育の場の提供も図っていきます。

● 研究室(研究課題)

ICT活用研究室

- ・競技コンテンツの低遅延配信
- ・オンラインコンテンツの臨場感向上
- ・SNSの活用による不正行為への啓蒙・対策

スポーツ情報科学研究室

- ・AIを活用した戦略分析
- ・指や視線の動作解析による競技力向上要素の検証
- ・音響がコントローラ操作に及ぼす影響の検証

eスポーツ環境支援研究室

- ・KAIT eスポーツクラブの競技支援および関連研究
- ・産学連携の枠組みを使ったイベント企画支援および関連研究

■ 健康生命科学研究所

健康生命科学研究所は、生涯健康で、生きがいをもって暮らすことができる社会に寄与することを目指し、生命科学分野の研究を「健康」をキーワードに統合・プロジェクト化して、人の健康に関わる教育・研究に取り組んでいます。

● 研究室(研究対象)

生体機能科学研究室<生体機能と機能性物質>／食品機能科学研究室<食品の機能>／ヘルス・コントロール研究室<健康の維持、管理>

■ バイオメディカル研究センター

バイオメディカル研究センターは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成27年度～令和元年度)「医療技術の革新に貢献するバイオ機能材料開発の研究拠点形成」のプロジェクト研究開発成果を継承し、令和2年4月より独立した研究センターとして研究開発に取り組んでいます。応用バイオ科学部、工学部、情報科学部の教員が分野を超えて連携し、ナノバイオテクノロジーとバイオインフォマティクスの医・生・工・情の連携により、新たなバイオ機能材料や医療基盤技術の創出を目的とする研究基盤の形成を目指しています。

● 研究課題

バイオ機能材料の開発とその有効性検証／情報メディアによるバイオ機能材料開発の高度化

■ 健康福祉支援開発センター

健康福祉支援開発センターは、健康科学、ロボット技術、情報技術、医学科学等の分野から、高齢者の健康寿命の延伸や障がい者の自立生活支援に貢献するための研究を進めています。「健康・自立支援」がテーマの研究は、産学官民連携を前提に取り組まれるものであり、地域連携を推進し、実用的かつ社会に役立てられる成果を追求しています。これらの研究は、学部生や大学院生といったマンパワーを活用し、地域連携教育という考えの基、社会現場を学びの場として進めています。

● 研究課題

維持増進システムの開発／人間に対して追従・誘導・並走を行なうロボットの開発／感情伝達を支援するコミュニケーション補助ツールの開発／人間の情動センシング・反応システムの開発／高齢者生活支援機器のマルチモーダルインターフェースに関する研究／建物内での移動行動調査のための歩行者の行動・位置推定技術

■ 地域連携災害ケア研究センター

地域と連携し災害時の対策を総合的に研究することで、実効性のある活動に対応することを目指しています。研究の成果は地元地域に反映し、自治体等と連携体制を取りながら、大学としての研究活動を積極的に推進していきます。

● 研究課題

災害ケア全体に関する研究／地域と連携した災害時の看護・ケア体制に関する研究／災害時における諸外国との連携に関する研究／災害対応システムの研究・開発／災害時を想定した福祉機器の開発／情報通信を用いた避難所運営システムの開発／避難所でのケアに関する研究／避難所生活者(自宅避難者含む)の心身両面のケアに関する研究／プライバシー確保の研究

■ 先進AI研究所

先進AI研究所は時代を変革する先進的なAI技術の研究、開発を目的として2019年に設立されました。本研究所は、次世代AI研究グループ、先進AI応用研究グループ、教育応用研究グループの3つのグループで構成し、新しい原理に基づくAIの基礎研究から、様々な分野にAIを適用する応用研究まで広く研究を展開しております。特に教育への応用も重要課題と位置づけ、その成果は本学の教育に積極的に導入する予定です。

● 研究課題

最新の脳科学の知見を取り入れた新しいメカニズムによるAI／量子コンピュータによるAI／生成AI／自動運転への応用／情報セキュリティ、社会セキュリティへの応用／ロボットへの応用／医療への応用／福祉への応用／個々の学生に最適化された教育を実現するAI

先進技術研究所



神奈川工科大学で取り組んでいる研究の中から、特に有望な研究開発プロジェクトを3つ選定し、広く社会に貢献することを目指して、実用化に向けた研究開発を集中的に展開しています。それぞれの開発プロジェクトには、学生が直接関わり、開発の喜びと難しさを経験することになります。

下の3つの研究は2024年度現在のテーマです。

もっと、もっといいクルマ創りのための評価手法の開発

ヴィークルダイナミクスラボ 機械工学科(山門 誠教授)

トヨタ・マツダなどカーメーカーの方々や、HKSなどアフターパーツメーカーの方々と、クルマの評価を本学オリジナルのTL技術で実施します。テストコースで最新スポーツカーの評価を行ったり、ドライビングシミュレータで計測を行ったりして、もっともっといいクルマ創りに貢献します。運転するのはメーカーのテストドライバだけではなく、学生ドライバも活躍しています。



エッジコンピューティングを用いた大容量通信処理プラットフォームの実用化

ストリーミングラボ 情報ネットワーク・コミュニケーション学科(丸山 充教授)

4Kの4倍、従来の地上波放送(2K)の16倍の容量を持つ超高精細8K映像を非圧縮(48Gbpsの伝送容量で、これはDVD1枚が1秒以内に送れる速度です)のまま伝送し、かつ色調調整や合成などの映像処理をクラウドやエッジコンピューティング上でリアルタイムに遅延なく行えるストリーミング向けのプラットフォームを開発しています。さまざまな世界初の実証実験を成功させており、本技術の実用化を目指します。

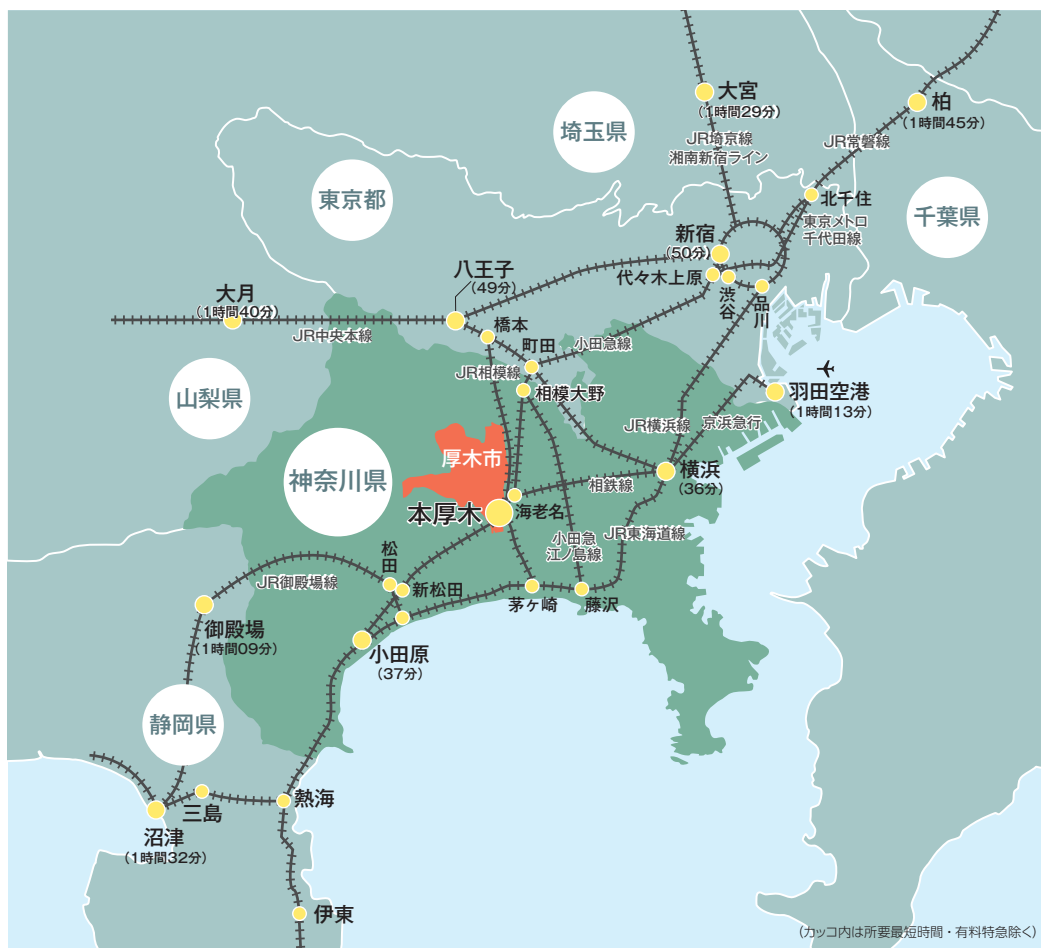
持続可能な社会に向けたバイオマス資源からのプラスチック原料の生産

グリーン・トランスフォーメーション(GX) ラボ 応用化学生物学科(仲亀 誠司教授)

世界的に地球温暖化の原因であるCO₂排出量削減の取組みが行われてきており、日本においても2050年にカーボンニュートラルの達成を目指しています。当研究室では、①「化石資源から製造されているプラスチック原料(PETボトルの原料など)を、大気中のCO₂を光合成により固定できる木や草などのバイオマス資源に置き換える」、②「製造プロセスにバイオ技術を活用する」ことで、CO₂排出量を抑制したプラスチック製造技術の実用化を目指しています。



アクセス マップ



本厚木駅・バス乗り場のご案内

ルート
1

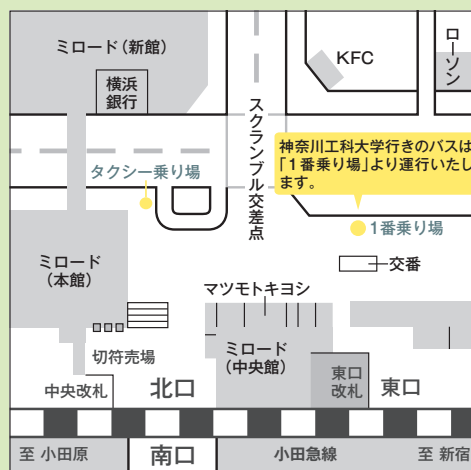
一般路線バス（2路線）

- 「神奈川工科大学前」停留所／バス約20～25分+徒歩0分
「本厚木駅北口」1番線乗り場より、2系統運行。
▶「あつぎ郷土博物館」行き / ▶「神奈川工科大学経由・鷺尾団地」行き
- 「荻野新宿」停留所／バス約18～23分+徒歩7分
「本厚木駅北口」1番線乗り場より、4系統運行。
▶「上荻野車庫」行き / ▶「半原」行き
▶「まつかげ台」行き / ▶「鷺尾団地」行き

ルート
2

直通バス

「厚木バスセンター」1-2番乗り場（本厚木駅より徒歩3分）より、1系統運行。／バス約17～20分
※夏季休暇期間中など、時期により運休



2026

Graduate School of
Engineering

Department of Mechanical Engineering

Department of Electrical and Electronic Engineering

Department of Applied Chemistry and Bioscience

Department of Information and Computer Sciences

Department of Robotics and Mechatronics Systems



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒 243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030

TEL. 046-291-3000 (ダイヤルイン)

E-mail nys@kait.jp <https://www.kait.jp>

